

男女共同参画社会に関する市民意識調査
報 告 書

令和3年1月

八 街 市

目 次

第1章 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査設計	1
3. 回収結果	1
4. 回答者の属性	2

第2章 調査の結果

1. 男女平等と人権の尊重について		
男女の地位平等について	9
2. 学校教育について		
学校教育の場で必要なこと	16
教育の程度について	17
3. 就労について		
女性が働く環境について	19
働きやすい理由について	20
働きづらい理由について	21
望ましい仕事のあり方について	22
女性が役職に就くことについて	23
働きやすい職場づくりについて	24
4. 家庭生活について		
役割分担について	25
5. 市民と行政の役割について		
行いたいことについて	32
活かすべき女性の視点について	33
行政の事業展開について	34

6. ドメスティックバイオレンス(DV)について		
DVについて	35
DVを受けた年齢について	36
DV加害者の続柄について	37
DVの内容について	38
DV相談について	43
DV相談機関について	44
DV相談をしない理由について	45
DVの状況について	46
行政のDV支援対応について	47

第3章	自由意見(主なご意見)	48
------------	--------------------	-------	----

資料	アンケート調査票		
-----------	-----------------	--	--

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民のみなさまに男女共同参画社会に関する考えや意見をお聞きし、第2次八街市男女共同参画計画策定の基礎資料とするためのものです。また、本市において新たに策定する「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」に基づくDV関連の施策に関する基本計画の策定に関する基礎資料となります。

2. 調査設計

(1) 調査対象	市内に居住する満20歳以上の男女2,000人
(2) 抽出方法	住民基本台帳に基づく無作為抽出
(3) 調査方法	郵送配布・郵送回収
(4) 調査期間	令和2年8月

3. 回収結果

(1) 対象者数	2,000人
(2) 有効回答数	555
(3) 無効回答数	11件
(4) 有効回収率	27.75%

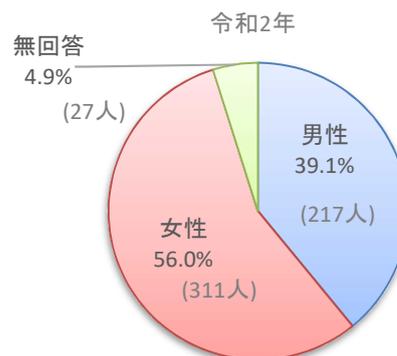
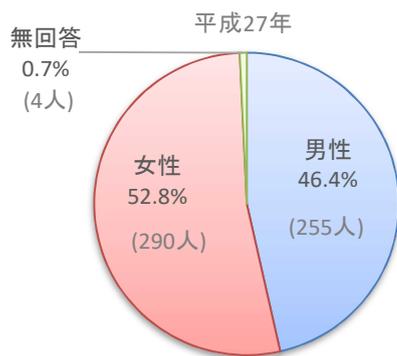
4. 報告書の見方

- (1) 構成比は、各設問の回答者数を基数とした百分率(%)で表示してあります。
- (2) 構成比については、小数点第二位を四捨五入してあるため、比率の合計が100%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の場合には、構成比の合計が100%を超える場合があります。

4. 回答者の属性

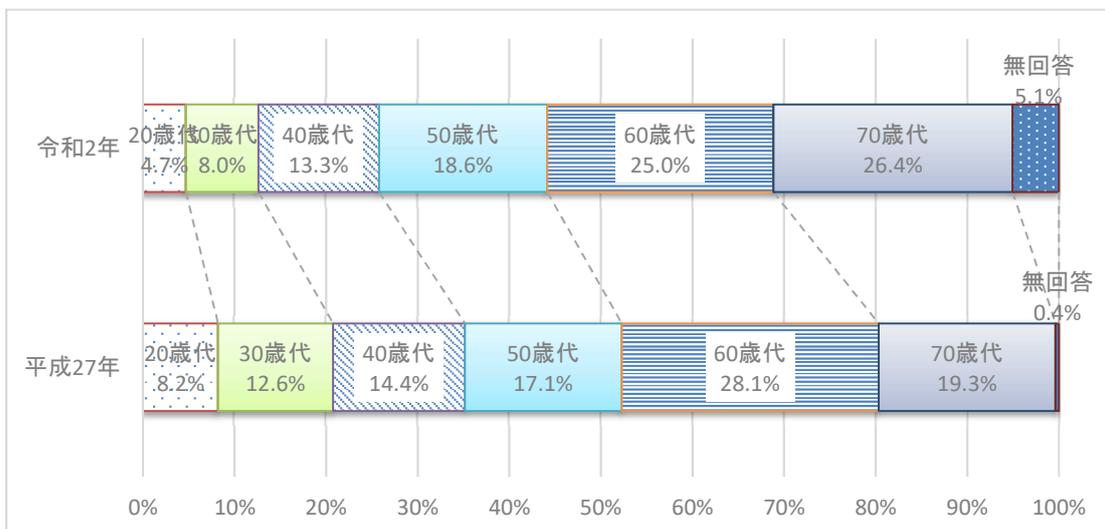
(1) 性別

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	男性	255	46.4%	217	39.1%
2	女性	290	52.8%	311	56.0%
	無回答	4	0.7%	27	4.9%
	合計	549		555	



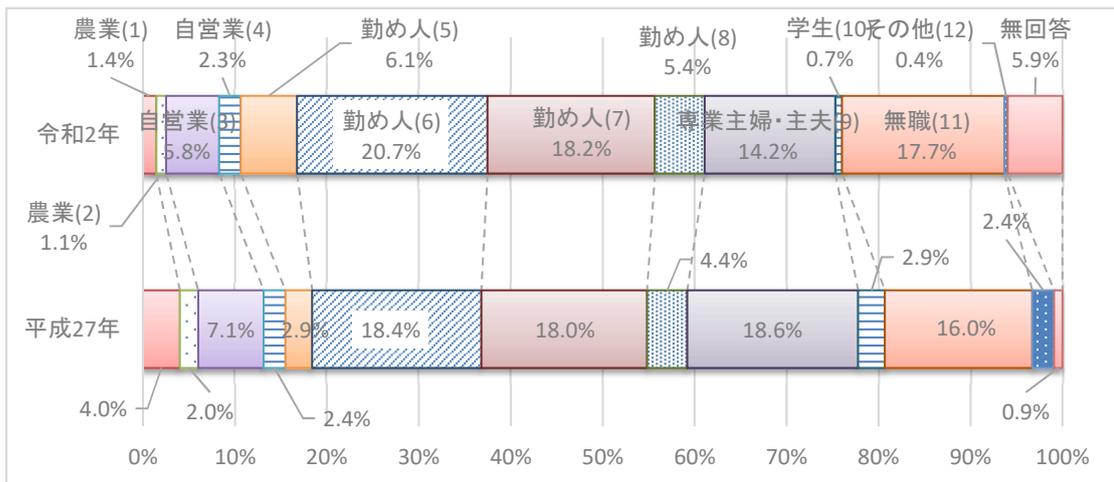
(2) 年齢

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	20歳代	45	8.2%	26	4.7%
2	30歳代	69	12.6%	44	8.0%
3	40歳代	79	14.4%	73	13.3%
4	50歳代	94	17.1%	102	18.6%
5	60歳代	154	28.1%	137	25.0%
6	70歳代	106	19.3%	145	26.4%
	無回答	2	0.4%	28	5.1%
	合計	549		549	



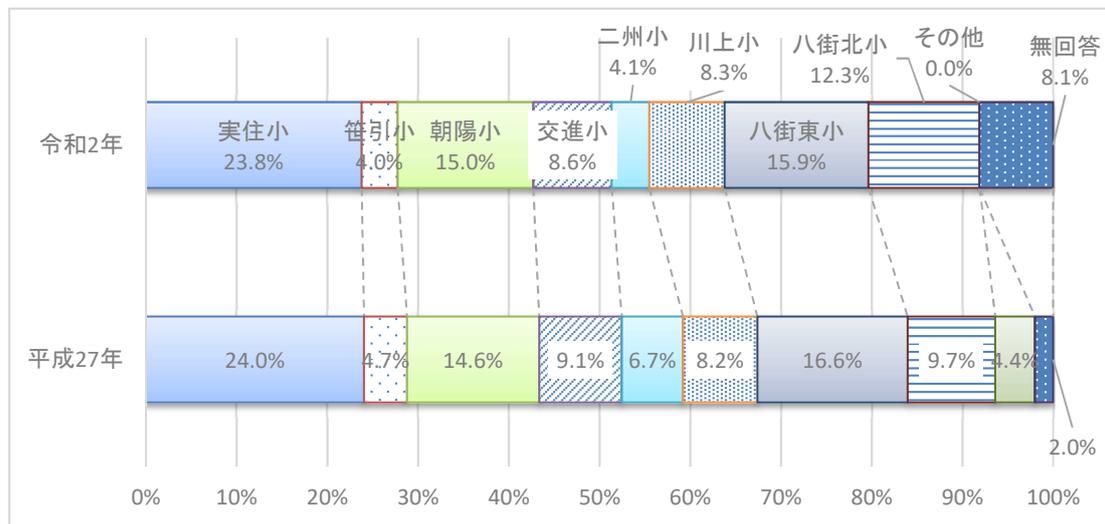
(3) 職業

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	農業-事業主	22	4.0%	8	1.4%
2	農業-家族従業者	11	2.0%	6	1.1%
3	自営業・自由業-事業主	39	7.1%	32	5.8%
4	自営業・自由業-家族従業者	13	2.4%	13	2.3%
5	勤め人-管理職（部課長以上）	16	2.9%	34	6.1%
6	勤め人-管理職以外の一般社員・職員	101	18.4%	115	20.7%
7	勤め人-パート・アルバイト・内職	99	18.0%	101	18.2%
8	勤め人-派遣・契約社員	24	4.4%	30	5.4%
9	専業主婦・主夫	102	18.6%	79	14.2%
10	学生	16	2.9%	4	0.7%
11	無職	88	16.0%	98	17.7%
	その他	13	2.4%	2	0.4%
	無回答	5	0.9%	33	5.9%
	合計	549		555	



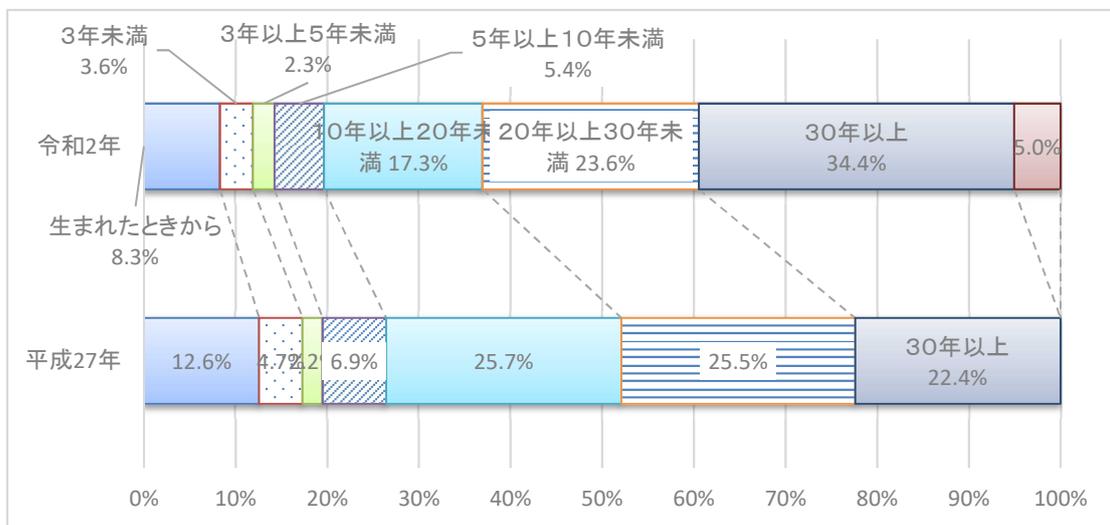
(4) 居住地域

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	実住小学校区	132	24.0%	132	23.8%
2	笹引小学校区	26	4.7%	22	4.0%
3	朝陽小学校区	80	14.6%	83	15.0%
4	交進小学校区	50	9.1%	48	8.6%
5	二州小学校区	37	6.7%	23	4.1%
6	川上小学校区	45	8.2%	46	8.3%
7	八街東小学校区	91	16.6%	88	15.9%
8	八街北小学校区	53	9.7%	68	12.3%
9	地区名	24	4.4%	0	0.0%
	無回答	11	2.0%	45	8.1%
	合計	549		555	



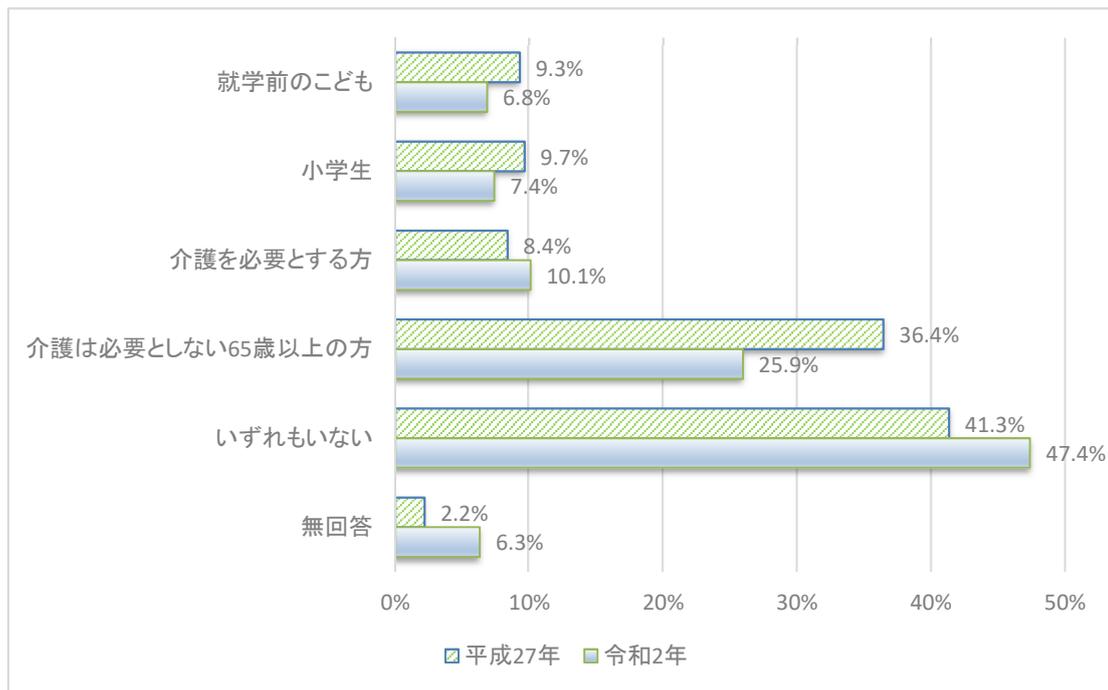
(5) 居住年数

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	生まれたときから	69	12.6%	46	8.3%
2	3年未満	26	4.7%	20	3.6%
3	3年以上5年未満	12	2.2%	13	2.3%
4	5年以上10年未満	38	6.9%	30	5.4%
5	10年以上20年未満	141	25.7%	96	17.3%
6	20年以上30年未満	140	25.5%	131	23.6%
7	30年以上	123	22.4%	191	34.4%
	無回答	0	0.0%	28	5.0%
	合計	549		555	



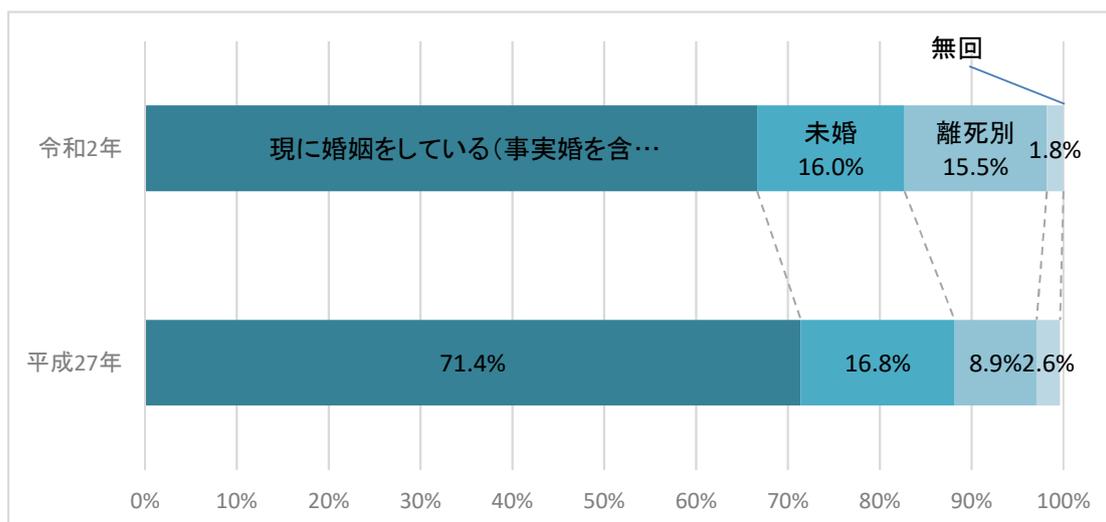
(6) 家族構成

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	就学前のこども	51	9.3%	38	6.8%
2	小学生	53	9.7%	41	7.4%
3	介護を必要とする方	46	8.4%	56	10.1%
4	介護は必要としない65歳以上の方	200	36.4%	144	25.9%
5	いずれもない	227	41.3%	263	47.4%
	無回答	12	2.2%	35	6.3%
	合計	549		555	



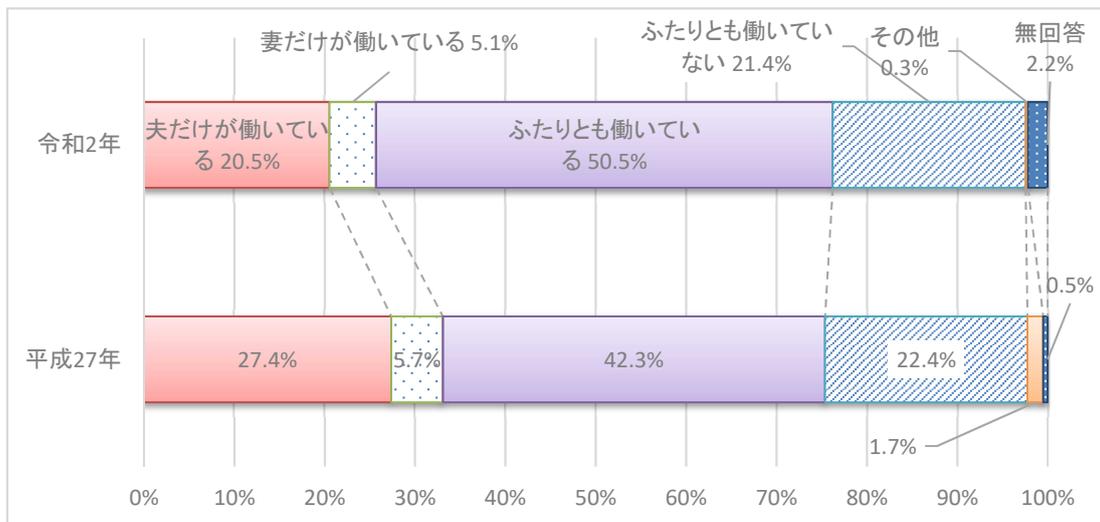
(7) 結婚状況

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	現に婚姻をしている（事実婚を含む。）	394	71.8%	370	66.7%
3	未婚	92	16.8%	89	16.0%
3	離死別	49	8.9%	86	15.5%
	無回答	14	2.6%	10	1.8%
	合計	549		555	



(8) 就労状況

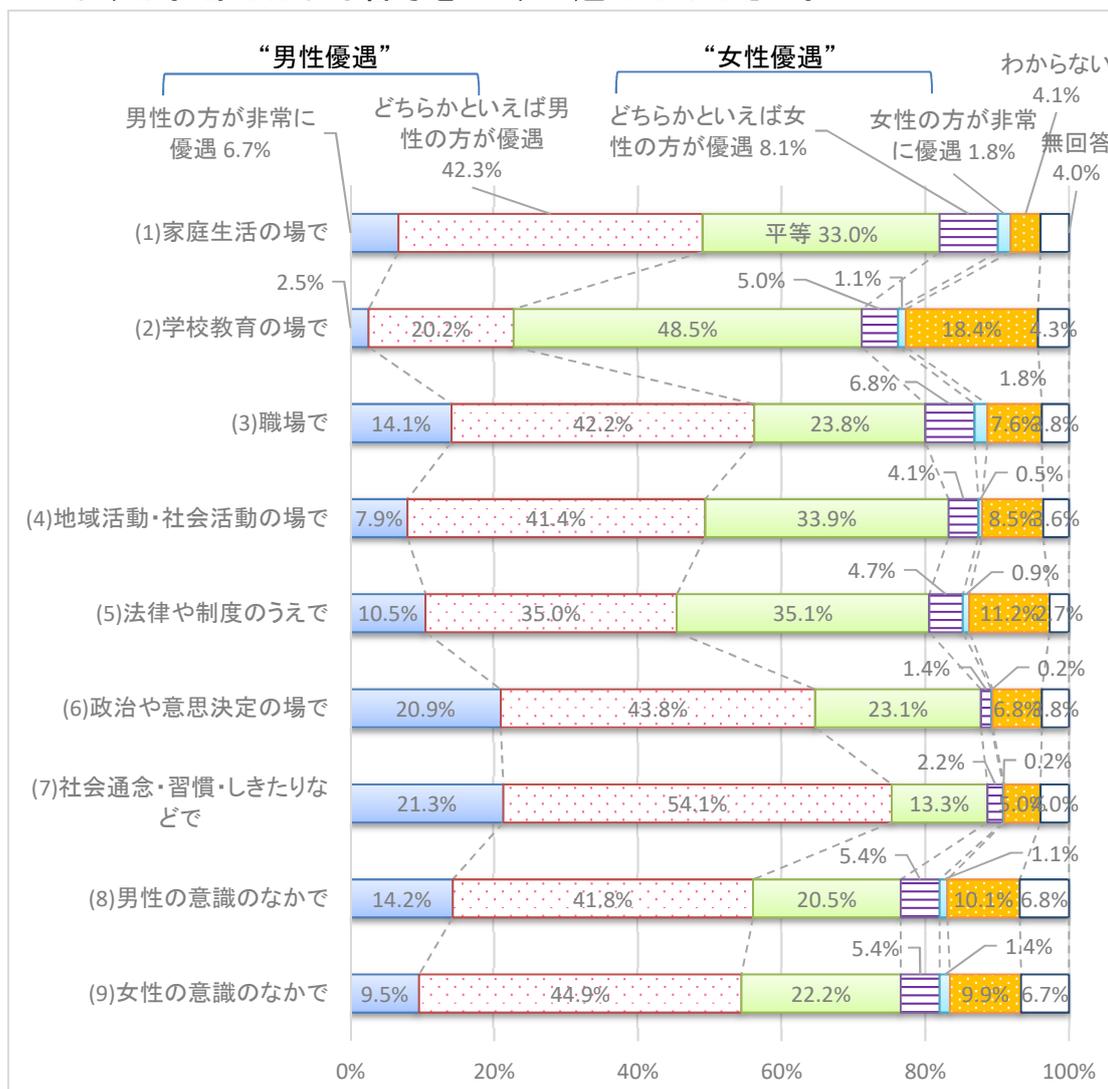
	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	夫（男性のパートナー）だけが働いている	110	27.4%	76	20.5%
2	妻（女性のパートナー）だけが働いている	23	5.7%	19	5.1%
3	ふたりとも働いている	170	42.3%	187	50.5%
4	ふたりとも働いていない	90	22.4%	79	21.4%
5	その他	7	1.7%	1	0.3%
	無回答	2	0.5%	8	2.2%
	合計	402		370	



第2章 調査の結果

1. 男女平等と人権の尊重について

問1. あなたは現在、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あてはまる番号を1つずつ選んでください。

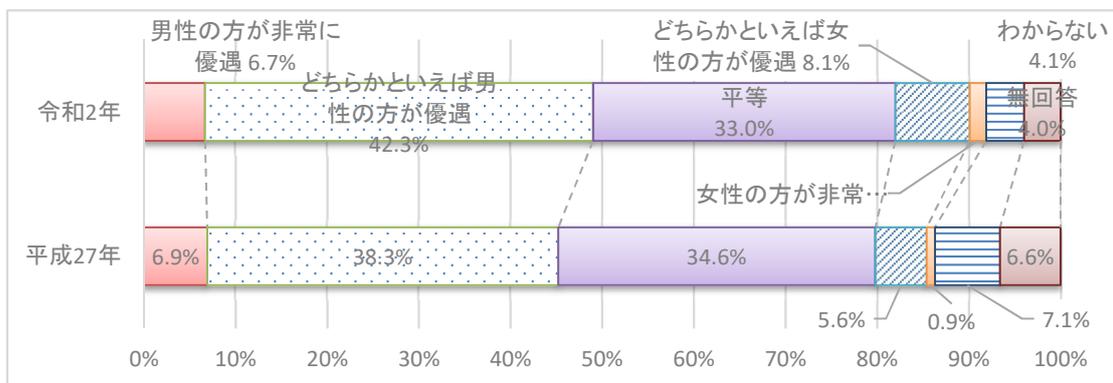


男女の地位平等について、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性優遇”が最も多い項目は、「社会通念・習慣・しきたりなどで」75.3%となっており、次いで、「政治や意思決定の場で」64.7%、「職場で」56.2%となっています。

全体的に“男性優遇”の占める割合が多くなっています。次のページから、それぞれの項目について、平成27年調査と今回の調査の比較を行っています。

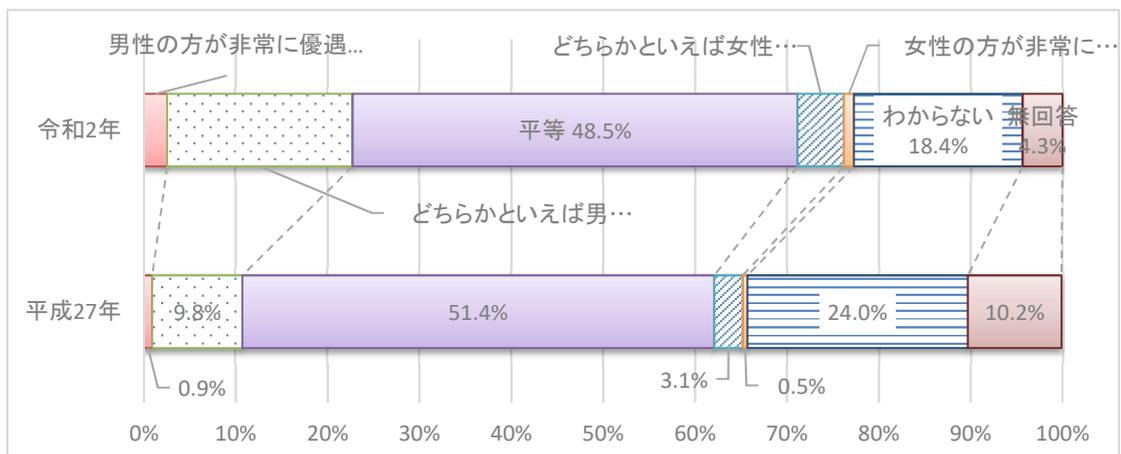
問1-1. 家庭生活の場で

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	38	6.9%	37	6.7%
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	210	38.3%	235	42.3%
3	平等	190	34.6%	183	33.0%
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	31	5.6%	45	8.1%
5	女性の方が非常に優遇されている	5	0.9%	10	1.8%
6	わからない	39	7.1%	23	4.1%
	無回答	36	6.6%	22	4.0%
	合計	549		555	



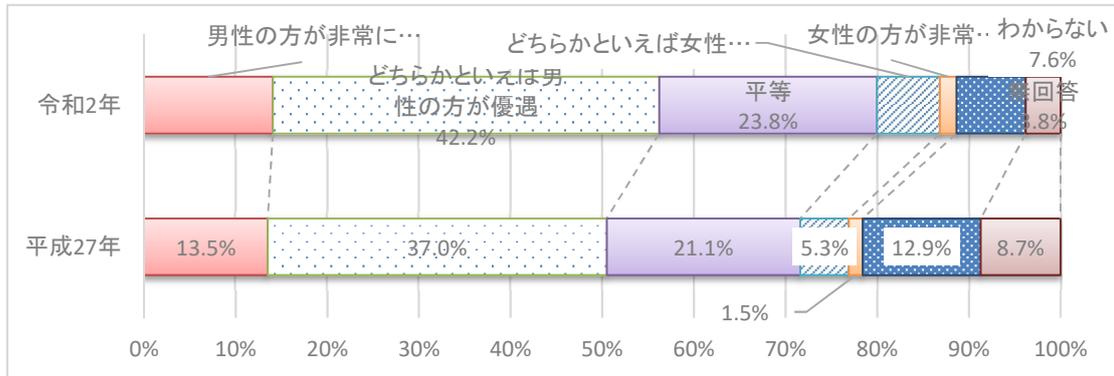
問1-2. 学校教育の場で

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	5	0.9%	14	2.5%
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	54	9.8%	112	20.2%
3	平等	282	51.4%	269	48.5%
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	17	3.1%	28	5.0%
5	女性の方が非常に優遇されている	3	0.5%	6	1.1%
6	わからない	132	24.0%	102	18.4%
	無回答	56	10.2%	24	4.3%
	合計	549		555	



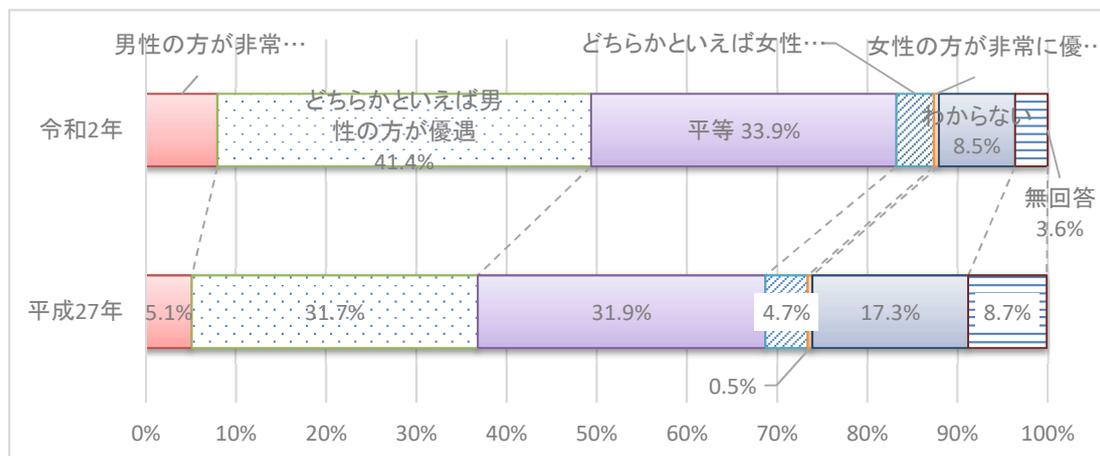
問1-3. 職場で

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	74	13.5%	78	14.1%
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	203	37.0%	234	42.2%
3	平等	116	21.1%	132	23.8%
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	29	5.3%	38	6.8%
5	女性の方が非常に優遇されている	8	1.5%	10	1.8%
6	わからない	71	12.9%	42	7.6%
	無回答	48	8.7%	21	3.8%
	合計	549		555	



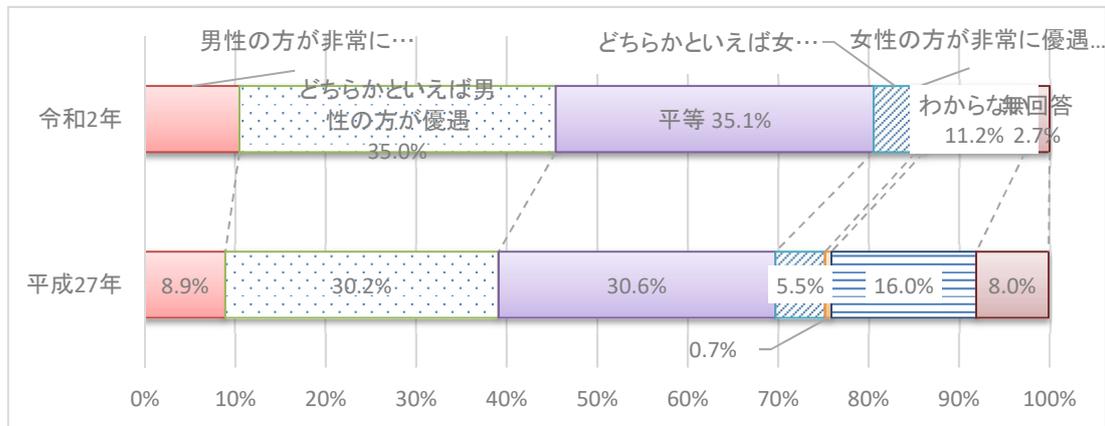
問1-4. 地域活動・社会活動の場で

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	28	5.1%	44	7.9%
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	174	31.7%	230	41.4%
3	平等	175	31.9%	188	33.9%
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	26	4.7%	23	4.1%
5	女性の方が非常に優遇されている	3	0.5%	3	0.5%
6	わからない	95	17.3%	47	8.5%
	無回答	48	8.7%	20	3.6%
	合計	549		555	



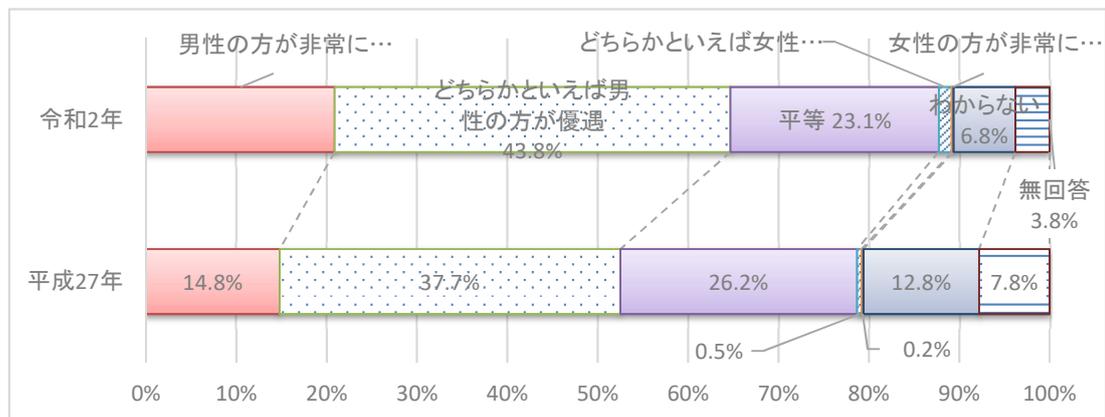
問1-5. 法律や制度のうえで

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	49	8.9%	58	10.5%
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	166	30.2%	194	35.0%
3	平等	168	30.6%	195	35.1%
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	30	5.5%	26	4.7%
5	女性の方が非常に優遇されている	4	0.7%	5	0.9%
6	わからない	88	16.0%	62	11.2%
	無回答	44	8.0%	15	2.7%
	合計	549		555	



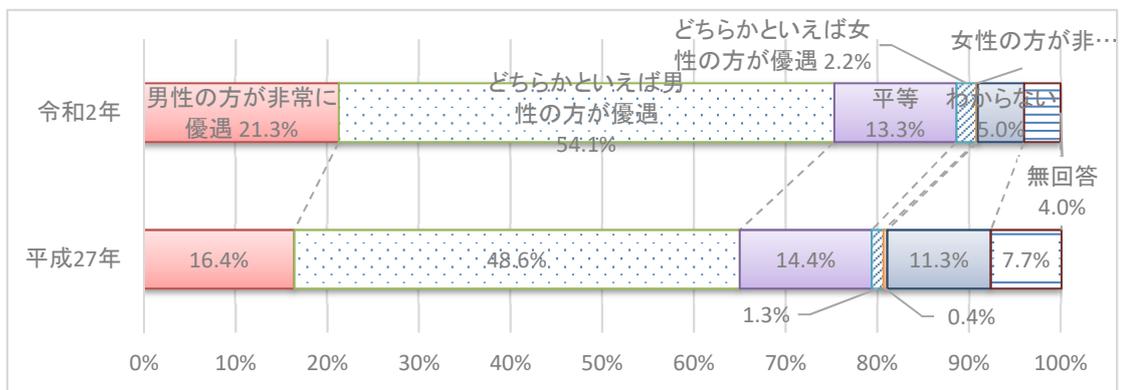
問1-6. 政治や意思決定の場で

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	81	14.8%	116	20.9%
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	207	37.7%	243	43.8%
3	平等	144	26.2%	128	23.1%
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	3	0.5%	8	1.4%
5	女性の方が非常に優遇されている	1	0.2%	1	0.2%
6	わからない	70	12.8%	38	6.8%
	無回答	43	7.8%	21	3.8%
	合計	549		555	



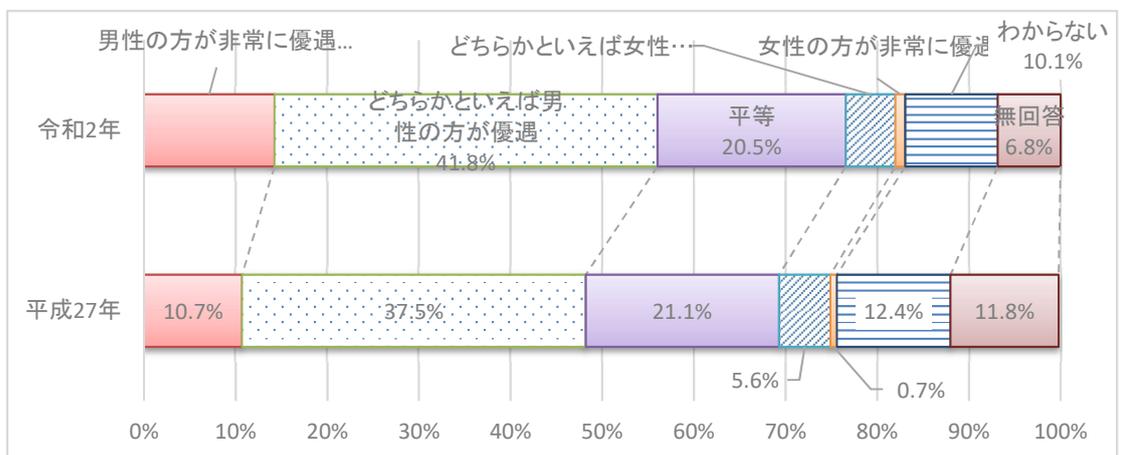
問1-7. 社会通念・習慣・しきたりなどで

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	90	16.4%	118	21.3%
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	267	48.6%	300	54.1%
3	平等	79	14.4%	74	13.3%
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	7	1.3%	12	2.2%
5	女性の方が非常に優遇されている	2	0.4%	1	0.2%
6	わからない	62	11.3%	28	5.0%
	無回答	42	7.7%	22	4.0%
	合計	549		555	



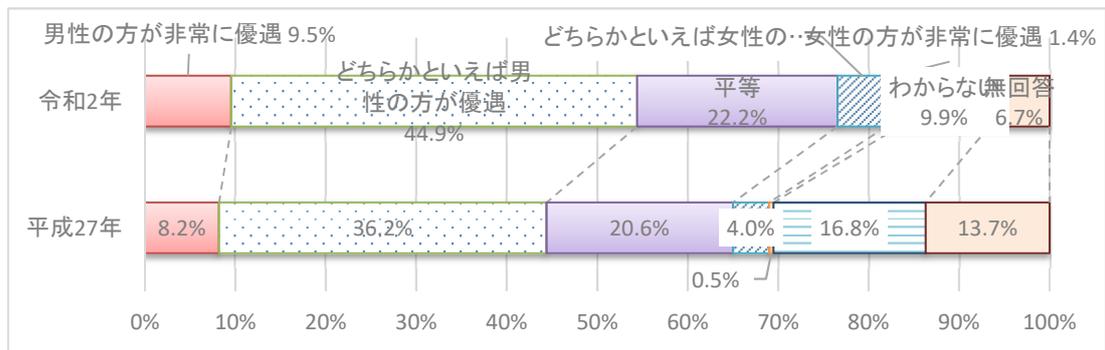
問1-8. 男性の意識のなかで

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	59	10.7%	79	14.2%
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	206	37.5%	232	41.8%
3	平等	116	21.1%	114	20.5%
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	31	5.6%	30	5.4%
5	女性の方が非常に優遇されている	4	0.7%	6	1.1%
6	わからない	68	12.4%	56	10.1%
	無回答	65	11.8%	38	6.8%
	合計	549		555	



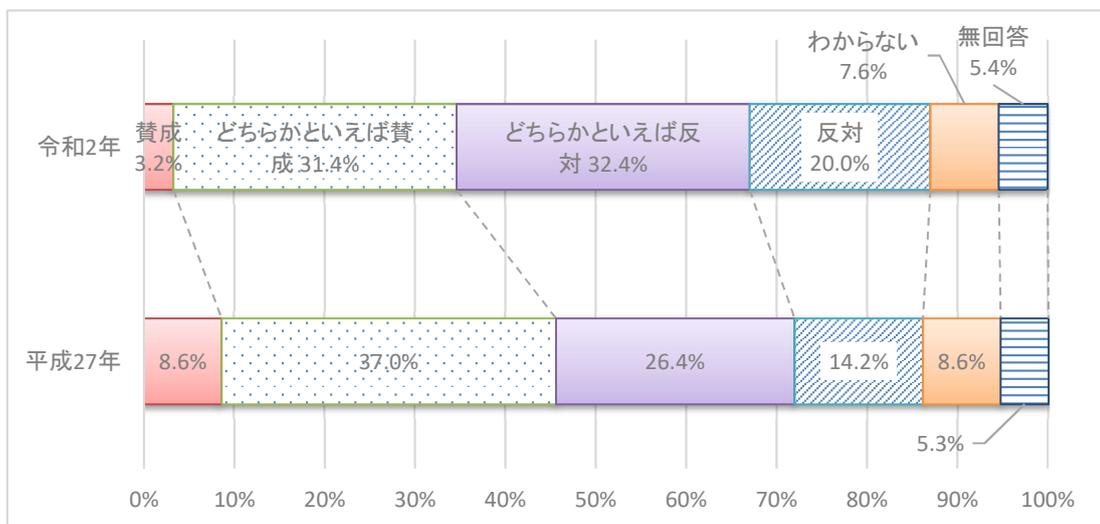
問1-9. 女性の意識のなかで

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	45	8.2%	53	9.5%
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	199	36.2%	249	44.9%
3	平等	113	20.6%	123	22.2%
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	22	4.0%	30	5.4%
5	女性の方が非常に優遇されている	3	0.5%	8	1.4%
6	わからない	92	16.8%	55	9.9%
	無回答	75	13.7%	37	6.7%
	合計	549		555	



問2. あなたは「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どのように思っていますか。あてはまる番号をひとつ選んでください。

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	賛成である	47	8.6%	18	3.2%
2	どちらかといえば賛成である	203	37.0%	174	31.4%
3	どちらかといえば反対である	145	26.4%	180	32.4%
4	反対である	78	14.2%	111	20.0%
5	わからない	47	8.6%	42	7.6%
	無回答	29	5.3%	30	5.4%
	合計	549		555	

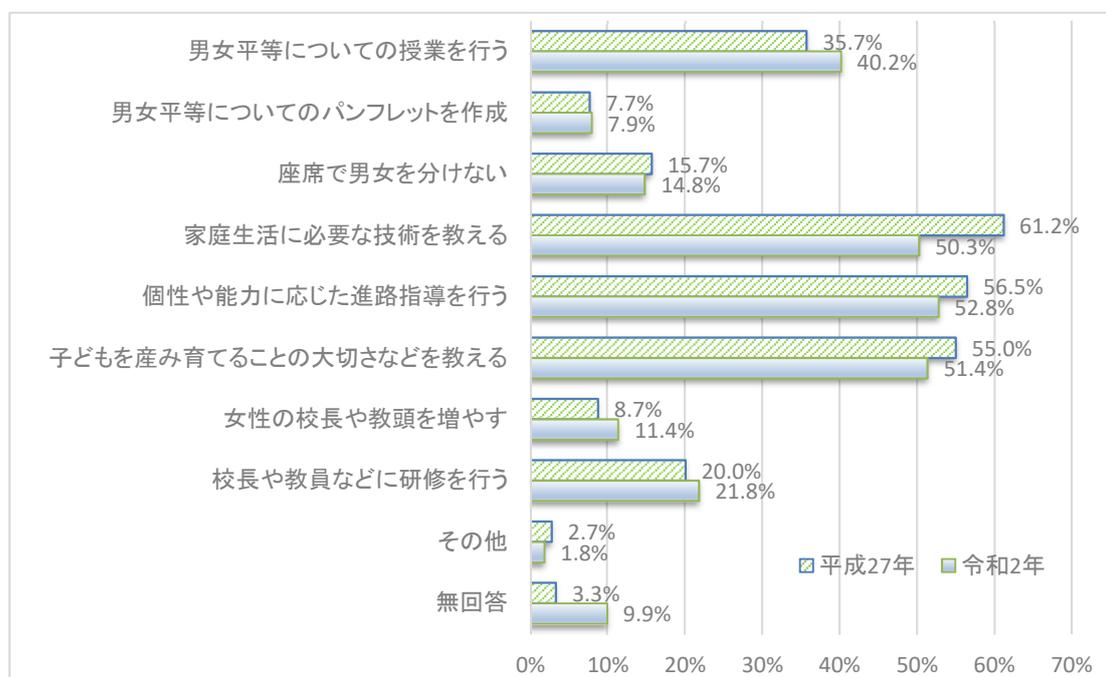


「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について、平成27年の調査に比べて今回の調査は、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”は、11.0ポイント減少し34.6%（H27調査45.6%）となりました。また、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた“反対”は11.8ポイント増加し52.4%（H27調査40.6%）となっています。

2 学校教育について

問3. あなたは男女共同参画をすすめるためには、学校教育の場で何が必要だと思いますか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

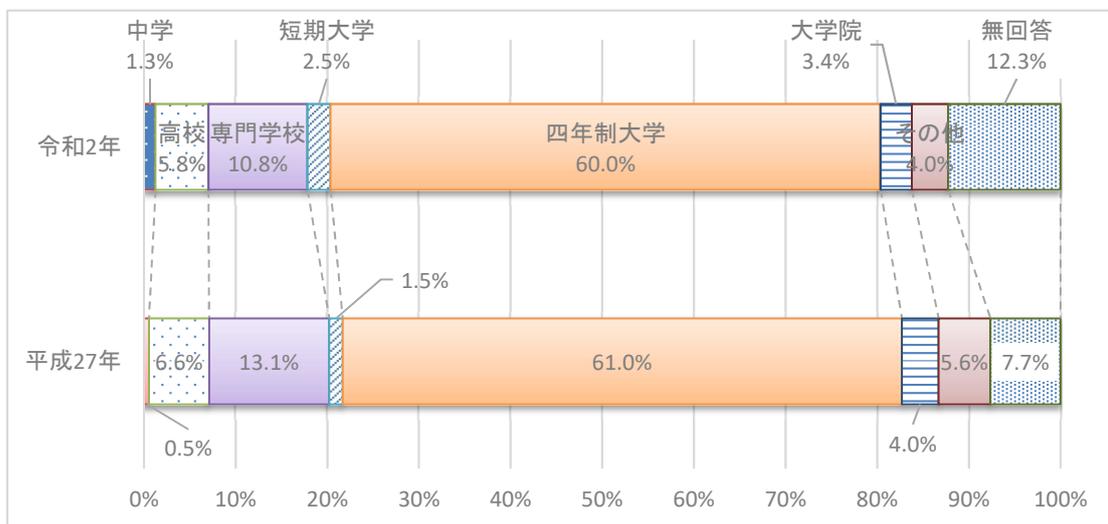
	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	男女平等についての授業を行うこと	196	35.7%	223	40.2%
2	男女平等についての子ども向け、家庭向けのパンフレットを作成すること	42	7.7%	44	7.9%
3	名簿や教室内の座席について、男女を分けないこと	86	15.7%	82	14.8%
4	家庭科などを通じて性別にかかわらず家庭生活に必要な技術を教えること	336	61.2%	279	50.3%
5	性別にかかわらず、児童・生徒の個性や能力に応じた進路指導を行うこと	310	56.5%	293	52.8%
6	互いの性を尊重しあうことや子どもを産み育てることの大切さを教えること	302	55.0%	285	51.4%
7	女性の校長や教頭を増やすこと	48	8.7%	63	11.4%
8	校長や教員などに対し、男女平等についての研修を行うこと	110	20.0%	121	21.8%
9	その他	15	2.7%	10	1.8%
	無回答	18	3.3%	55	9.9%
	合計	549		555	



男女共同参画をすすめるために学校教育の場で必要なものは、「性別にかかわらず、児童・生徒の個性や能力に応じた進路指導を行うこと」が52.8%となっており、最も高い割合となっています。次いで「互いの性を尊重しあうことや子どもを産み育てることの大切さを教えること」51.4%となっています。

問4-1. あなたは子どもに将来どの程度の教育を受けさせたい(受けさせたかった)と思いますか。あてはまる番号をひとつ選んでください。
【男子の場合】

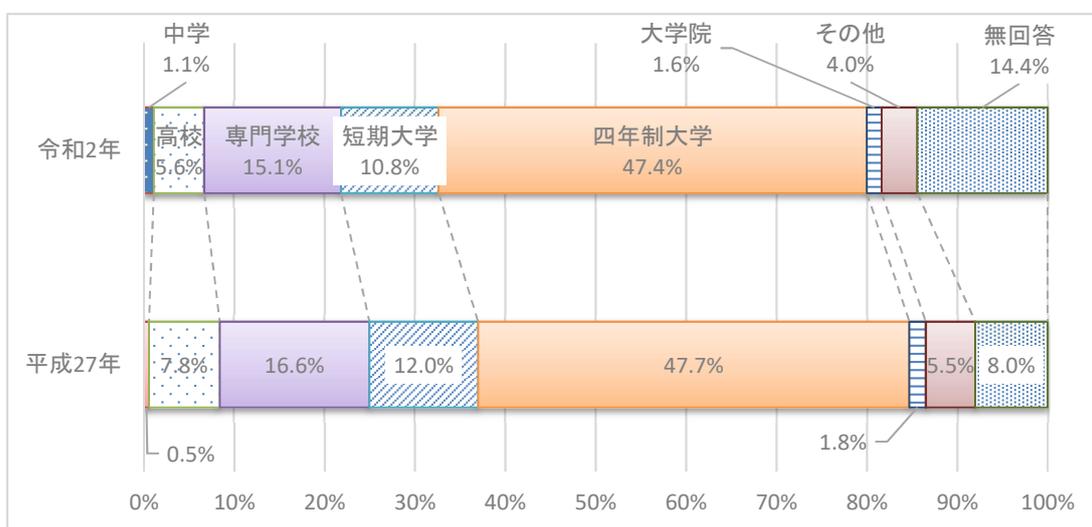
	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	中学	3	0.5%	7	1.3%
2	高校	36	6.6%	32	5.8%
3	専門学校	72	13.1%	60	10.8%
4	短期大学	8	1.5%	14	2.5%
5	四年制大学	335	61.0%	333	60.0%
6	大学院	22	4.0%	19	3.4%
7	その他	31	5.6%	22	4.0%
	無回答	42	7.7%	68	12.3%
	合計	549		555	



子どもが男子の場合、どの程度教育を受けさせたいか、という問いについて、「四年制大学」が60.0%。次いで、「専門学校」が10.8%となっています。微増微減はありますが、構成比としては概ね同様の傾向となっています。

問4-2. あなたは子どもに将来どの程度の教育を受けさせたい(受けさせたかった)と思いますか。あてはまる番号をひとつ選んでください。
【女の子の場合】

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	中学	3	0.5%	6	1.1%
2	高校	43	7.8%	31	5.6%
3	専門学校	91	16.6%	84	15.1%
4	短期大学	66	12.0%	60	10.8%
5	四年制大学	262	47.7%	263	47.4%
6	大学院	10	1.8%	9	1.6%
7	その他	30	5.5%	22	4.0%
	無回答	44	8.0%	80	14.4%
	合計	549		555	

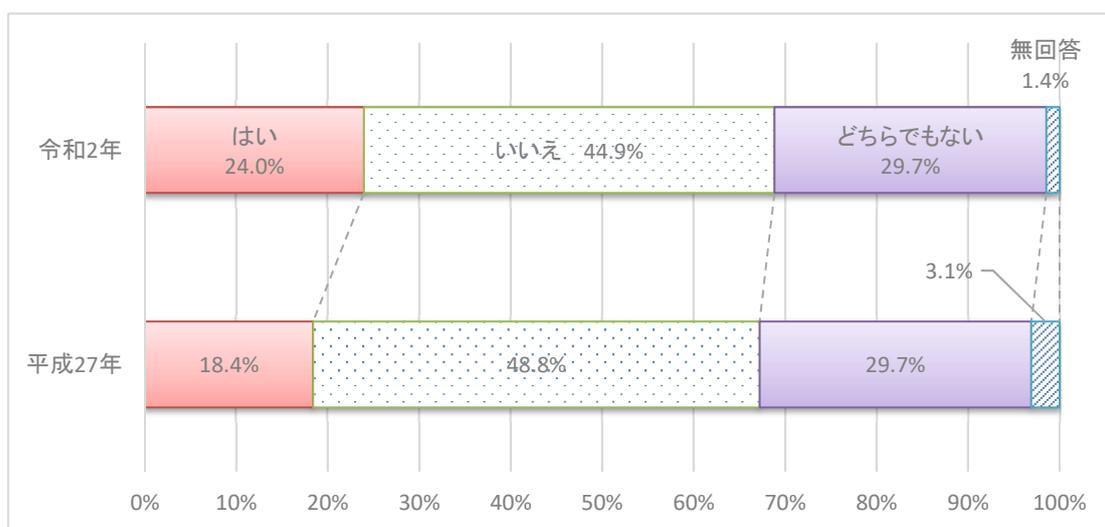


子どもが女の子の場合、どの程度教育を受けさせたいか、という問いについて男の子の場合と比べると、「四年制大学」が半数以下の割合となっており、また、「専門学校」と「短期大学」の割合が多い傾向となっております。この傾向については平成27年の調査でも見られる傾向です。

3 就労について

問5. あなたは現在の女性は働きやすい環境にあると思いますか。あてはまる番号をひとつ選んでください。

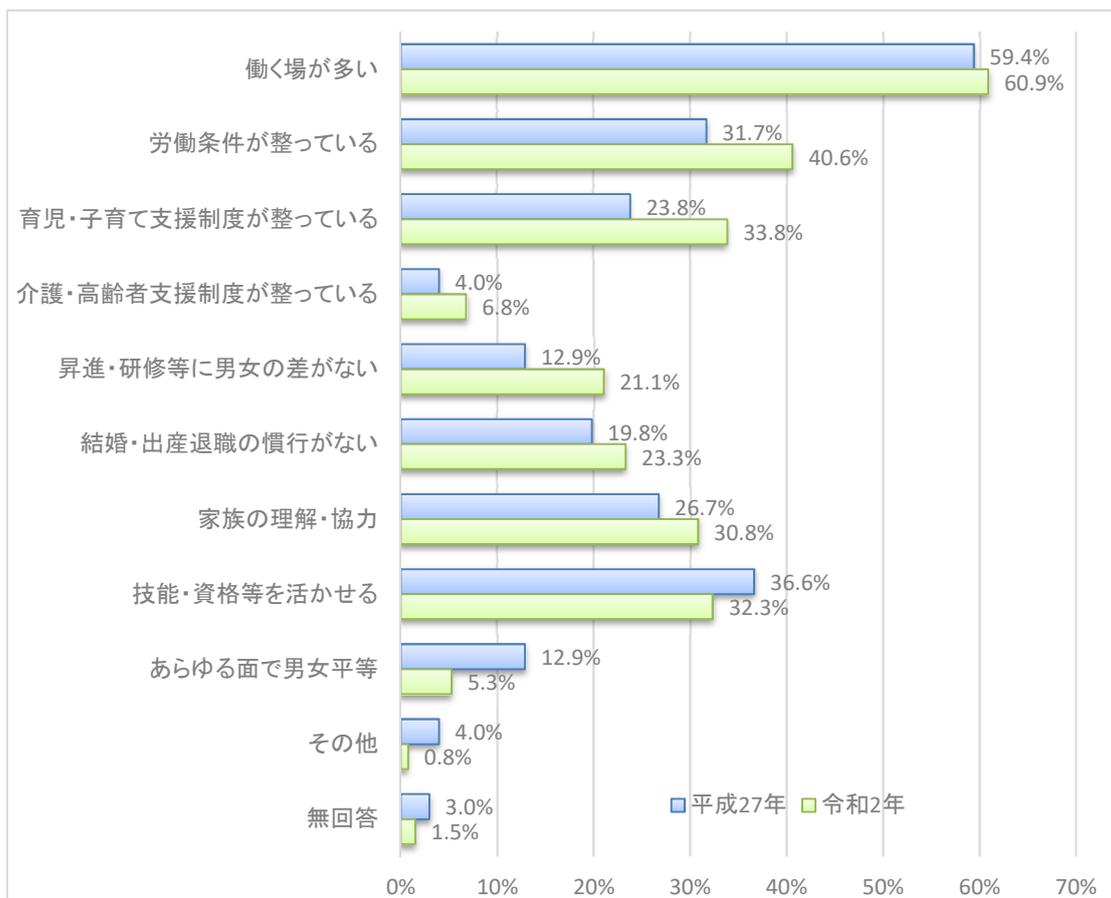
	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	はい	101	18.4%	133	24.0%
2	いいえ	268	48.8%	249	44.9%
3	どちらでもない	163	29.7%	165	29.7%
	無回答	17	3.1%	8	1.4%
	合計	549		555	



女性は働きやすい環境にあると答えている割合が、平成27年の調査と比べると5.6ポイント増加し24.0%となっていますが、依然として、約半数の44.9%の人が、女性は働きづらい環境にあると答えています。

問5-1. 問5で「1. はい」を選んだ方におききします。それはどのような理由からですか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

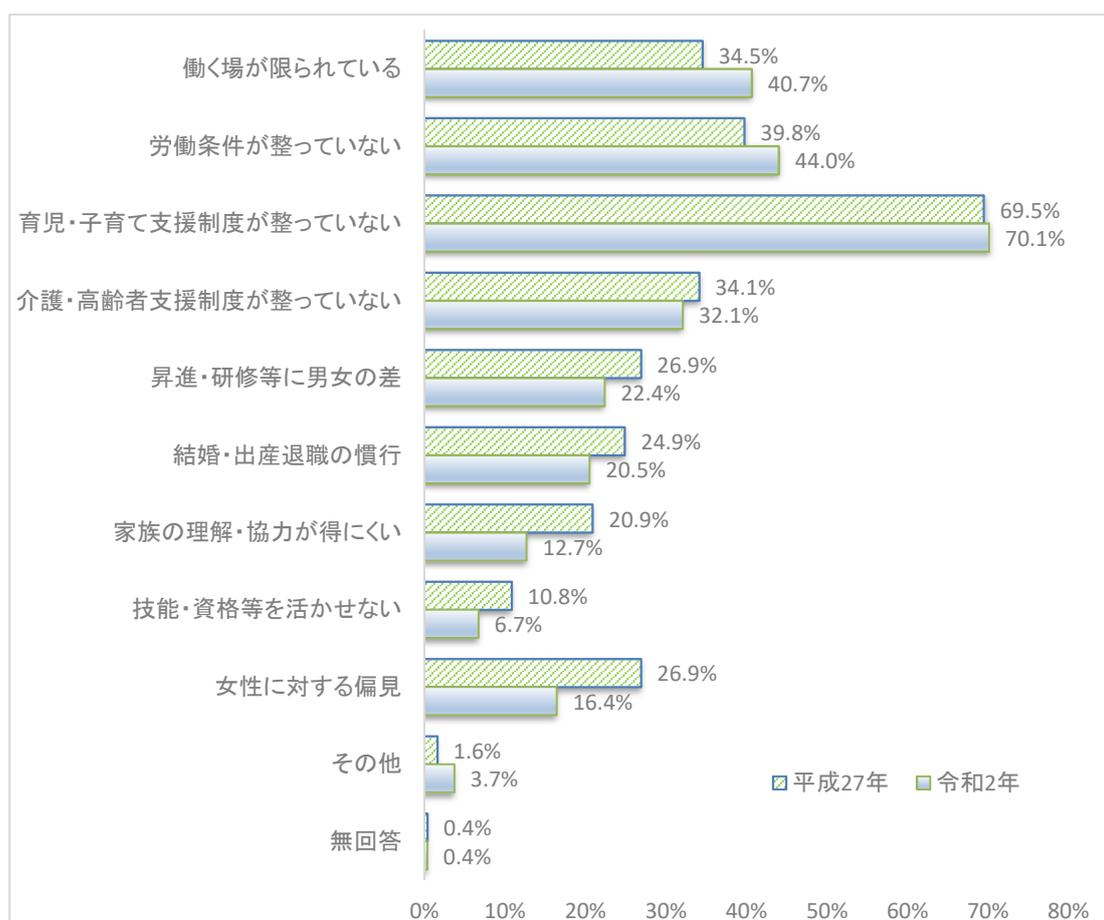
	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	働く場が多い	60	59.4%	81	60.9%
2	労働条件が整っている	32	31.7%	54	40.6%
3	育児・子育て支援制度が整っている	24	23.8%	45	33.8%
4	介護・高齢者支援制度が整っている	4	4.0%	9	6.8%
5	昇進・研修等に男女の差がない	13	12.9%	28	21.1%
6	結婚・出産退職の慣行がない	20	19.8%	31	23.3%
7	家族の理解・協力が得やすい	27	26.7%	41	30.8%
8	技能・資格等を活かすことができる	37	36.6%	43	32.3%
9	あらゆる面で男女平等が図られている	13	12.9%	7	5.3%
10	その他	4	4.0%	1	0.8%
	無回答	3	3.0%	2	1.5%
	合計	101		133	



女性が働きやすい環境にある理由として、「働く場が多い」が最も多く、60.9% (H27調査59.4%) となっています。また、平成27年の調査からの変化として、「労働条件が整っている」が8.9ポイント増えて40.6%、「育児・子育て支援制度が整っている」が10.1ポイント増えて33.8%となっております。

問5-2. 問5で「2. いいえ」を選んだ方におききします。それはどのような理由からですか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

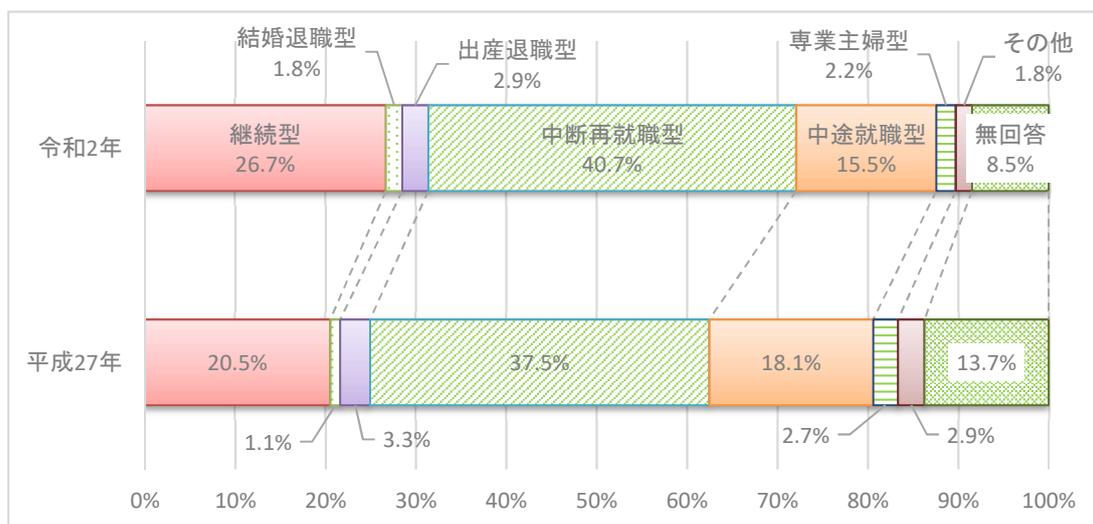
	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	働く場が限られている	109	40.7%	86	34.5%
2	労働条件が整っていない	118	44.0%	99	39.8%
3	育児・子育て支援制度が整っていない	188	70.1%	173	69.5%
4	介護・高齢者支援制度が整っていない	86	32.1%	85	34.1%
5	昇進・研修等に男女の差がある	60	22.4%	67	26.9%
6	結婚・出産退職の慣行がある	55	20.5%	62	24.9%
7	家族の理解・協力が得にくい	34	12.7%	52	20.9%
8	技能・資格等を活かすことができない	18	6.7%	27	10.8%
9	女性に対する偏見がある	44	16.4%	67	26.9%
10	その他	10	3.7%	4	1.6%
	無回答	1	0.4%	1	0.4%
	合計	268		249	



女性が働きづらい環境である理由として、「育児・子育て支援制度が整っていない」が最も多く、69.5%(H27調査70.1%)になっています。次いで、「労働条件が整っていない」が4.3ポイント増加し44.0%となっています。

問6. あなたは次のなかで、女性の仕事に対するあり方でどれが最も望ましいと思いますか。あてはまる番号をひとつ選んでください。

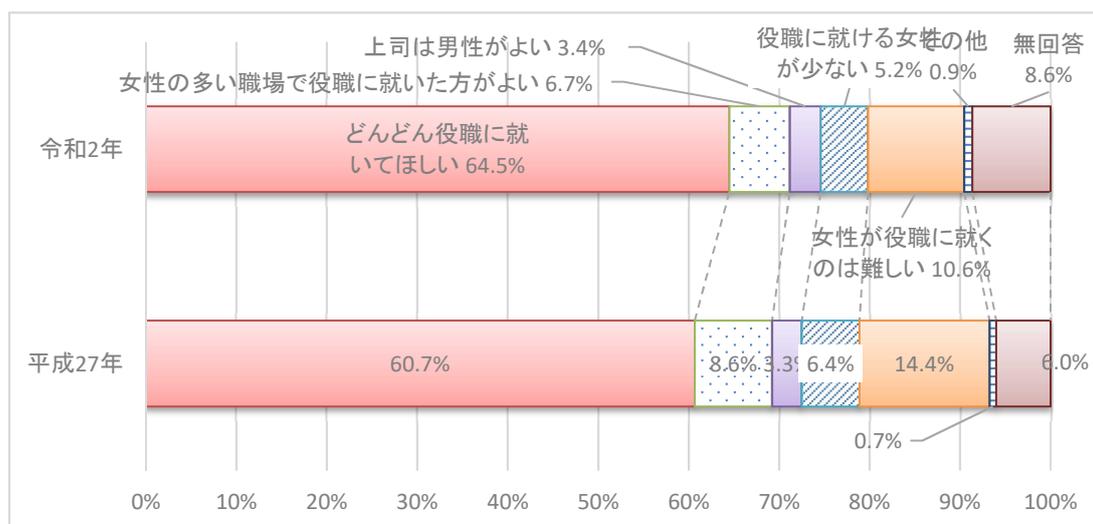
	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	仕事をもち続けるタイプ(継続型)	112	20.5%	148	26.7%
2	結婚を機に仕事をやめるタイプ(結婚退職型)	6	1.1%	10	1.8%
3	出産を機に仕事をやめるタイプ(出産退職型)	18	3.3%	16	2.9%
4	仕事は続けるが子育ての時期は一時やめて家庭にいるタイプ(中断再就職型)	205	37.5%	226	40.7%
5	結婚してからまたは子育てが終わってから仕事を始めるタイプ(中途就職型)	99	18.1%	86	15.5%
6	仕事はしないタイプ(専業主婦型)	15	2.7%	12	2.2%
7	その他	16	2.9%	10	1.8%
	無回答	75	13.7%	47	8.5%
	合計	546		555	



女性の仕事に対するあり方について、最も多いのが「中断再就職型」37.5%(H16調査35.2%)となっています。また、平成27年の調査からの最も大きな変化は、「継続型」となっており、6.2ポイント増加し26.7%となっています。

問7. あなたは女性が職場で役職に就くことについて、どのようにお考えですか。あてはまる番号をひとつ選んでください。

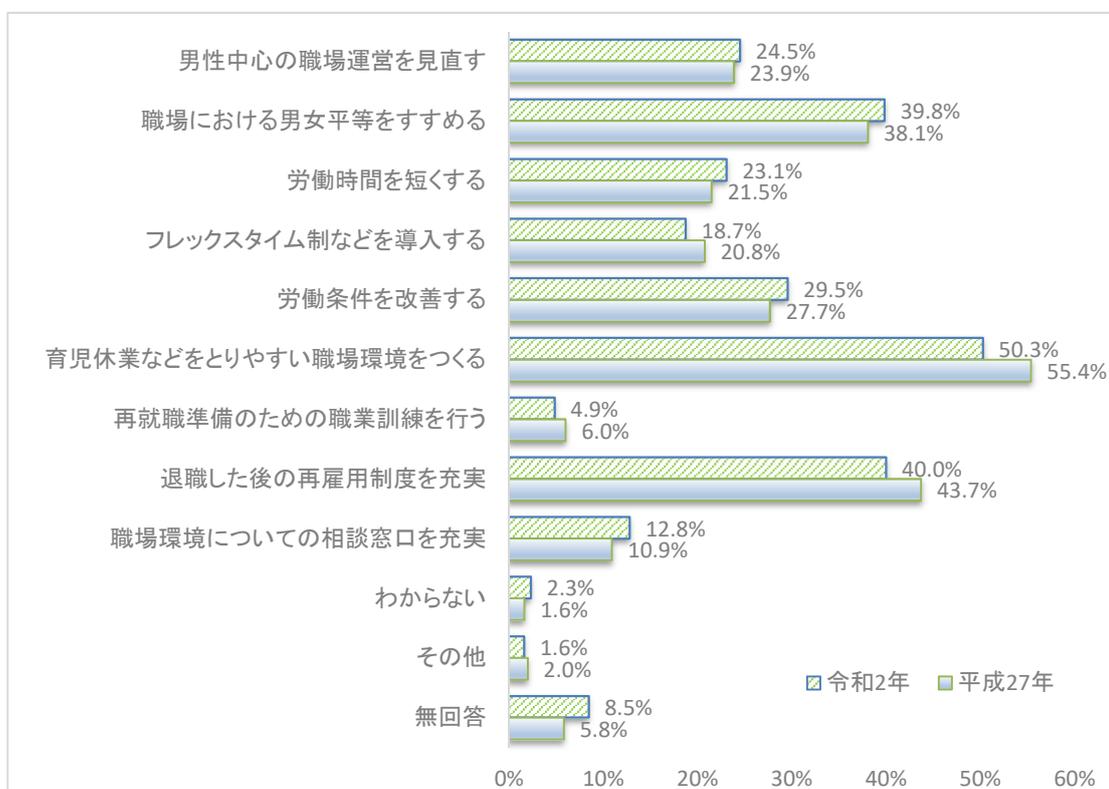
	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	意欲と能力のある女性は、どんどん役職に就いてほしい	333	60.7%	358	64.5%
2	女性の特性が活かされたり、女性の多い職場で役職に就いた方がよい	47	8.6%	37	6.7%
3	女性も役職に就いた方がよいが、自分の上司は男性がよい	18	3.3%	19	3.4%
4	現状では、役職に就くことができる経験や能力を備えた女性が少ない	35	6.4%	29	5.2%
5	家事や子育て、介護などの負担が大きいため、女性が役職に就くのは難しい	79	14.4%	59	10.6%
6	その他	4	0.7%	5	0.9%
	無回答	33	6.0%	48	8.6%
	合計	549		555	



女性が役職に就くことについて、「どんどん役職に就いてほしい」が最も多く64.5%(H27調査60.7%)となっています。平成27年の調査からの変化として、「家事や子育て、介護などの負担が大きいため、女性が役職に就くのは難しい」が3.8ポイント減少し、10.6%となっています。

問8. あなたは男女がともに働きやすい職場をつくるためには、どのようなことが大切だと思いますか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

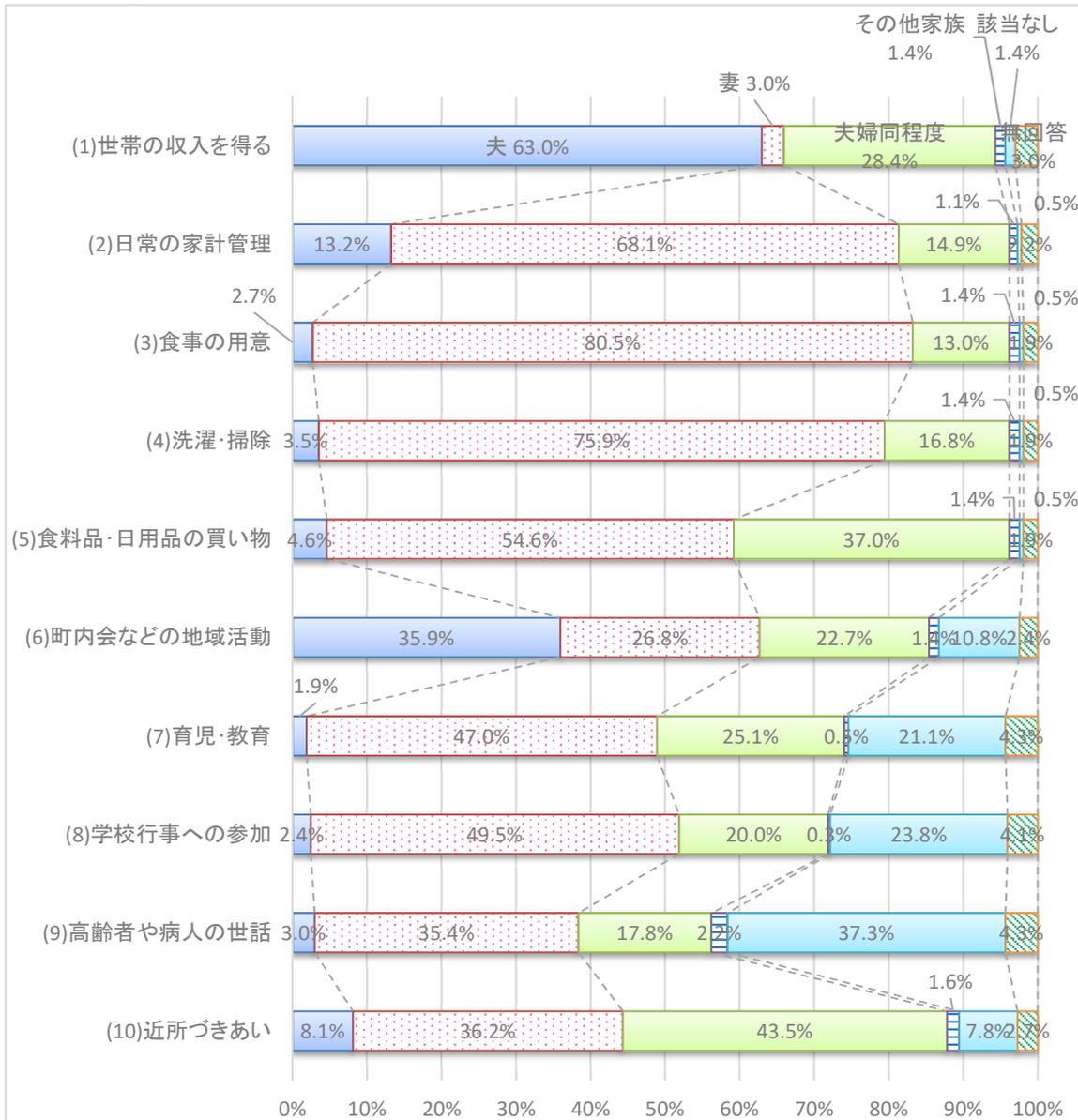
	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	男女で仕事の内容に差があるなど、男性中心の職場運営を見直す	131	23.9%	136	24.5%
2	賃金や昇進など、職場における男女平等をすすめる	209	38.1%	221	39.8%
3	残業を減らすなど労働時間を短くする	118	21.5%	128	23.1%
4	在宅勤務やフレックスタイム制などを導入する	114	20.8%	104	18.7%
5	パートタイム労働者や派遣社員など労働条件を改善する	152	27.7%	164	29.5%
6	育児休業や介護休業をとりやすい職場環境をつくる	304	55.4%	279	50.3%
7	再就職準備のための講座や職業訓練を行う	33	6.0%	27	4.9%
8	結婚や子育てなどで退職した後の再雇用制度を充実する	240	43.7%	222	40.0%
9	仕事や職場環境についての相談窓口を充実する	60	10.9%	71	12.8%
10	わからない	9	1.6%	13	2.3%
11	その他	11	2.0%	9	1.6%
	無回答	32	5.8%	47	8.5%
	合計	549		555	



働きやすい職場をつくるためには、「育児休業などをとりやすい職場環境」が最も多く50.3%(H27調査55.4%)となっています。

4 家庭生活について

問9. 「現に婚姻をしている方（事実婚を含む。）」におききます。あなたの家庭では、次の役割を主にどなたが担当していますか。(1)から(10)のそれぞれについて、あてはまる番号をひとつずつ選んでください。



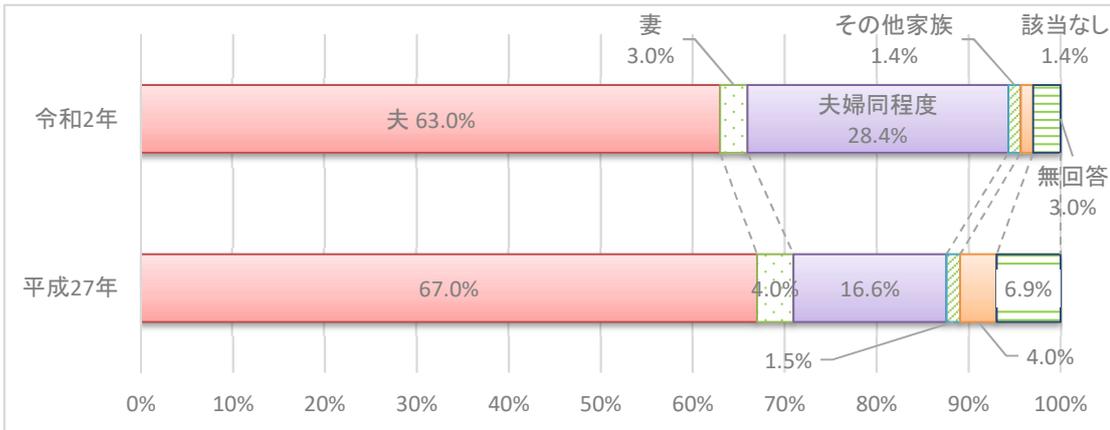
家庭での役割分担について、「夫」の割合が最も多かった項目が、「世帯の収入を得る」63.0%、次いで「町内会などの地域活動」35.9%、「日常の家計管理」13.2%となっています。

「妻」の割合が最も多い項目は、「食事の用意」80.5%、次いで「洗濯・掃除」75.9%、「日常の家計管理」68.1%となっています。

次のページから、それぞれの項目について、平成27年の調査と今回の調査の比較を行っています。

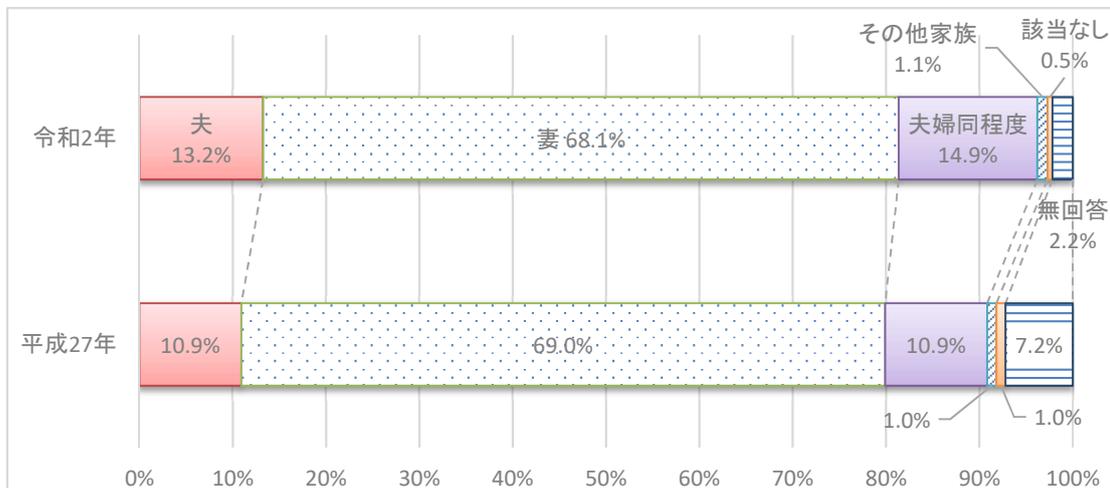
(1) 世帯の収入を得る

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	夫	270	67.0%	233	63.0%
2	妻	16	4.0%	11	3.0%
3	夫婦同程度	67	16.6%	105	28.4%
4	その他家族	6	1.5%	5	1.4%
5	該当なし	16	4.0%	5	1.4%
	無回答	28	6.9%	11	3.0%
	合計	403		370	



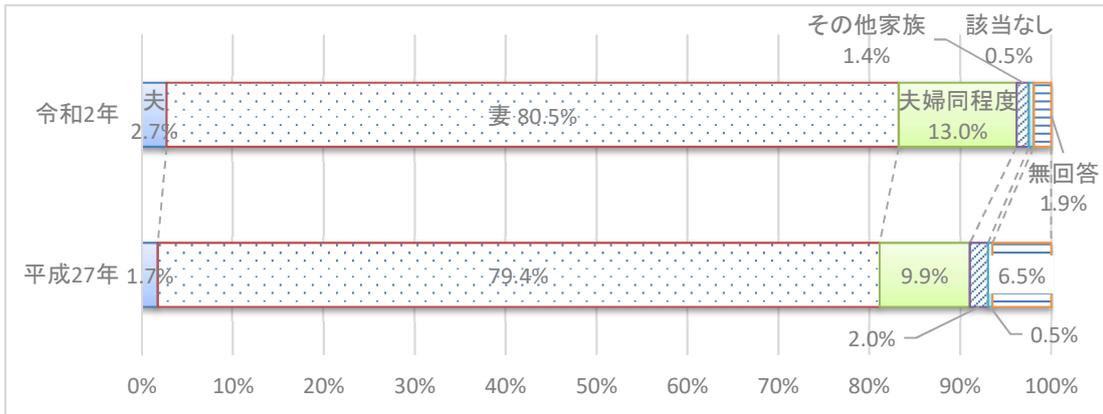
(2) 日常の家計管理

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	夫	44	10.9%	49	13.2%
2	妻	278	69.0%	252	68.1%
3	夫婦同程度	44	10.9%	55	14.9%
4	その他家族	4	1.0%	4	1.1%
5	該当なし	4	1.0%	2	0.5%
	無回答	29	7.2%	8	2.2%
	合計	403		370	



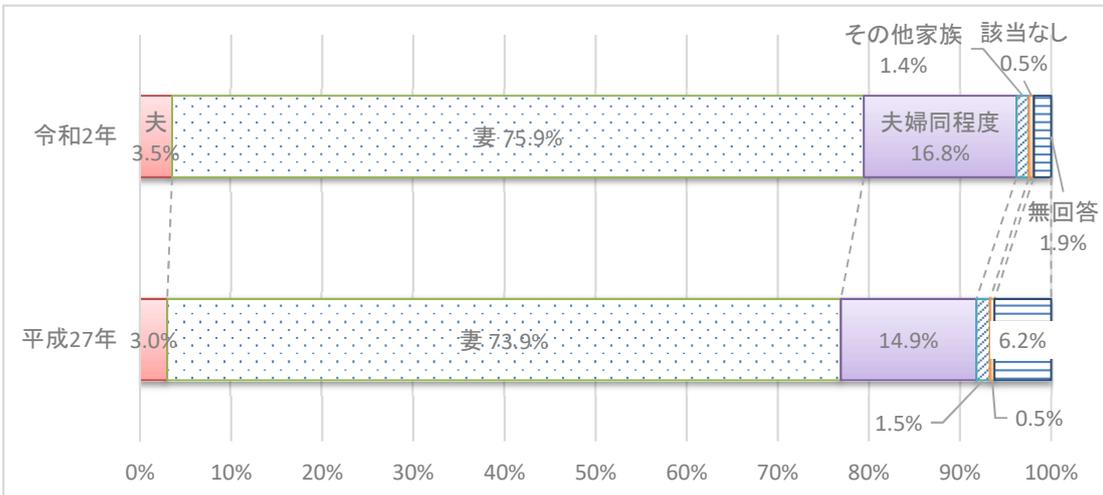
(3) 食事の用意

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	夫	7	1.7%	10	2.7%
2	妻	320	79.4%	298	80.5%
3	夫婦同程度	40	9.9%	48	13.0%
4	その他家族	8	2.0%	5	1.4%
5	該当なし	2	0.5%	2	0.5%
	無回答	26	6.5%	7	1.9%
	合計	403		370	



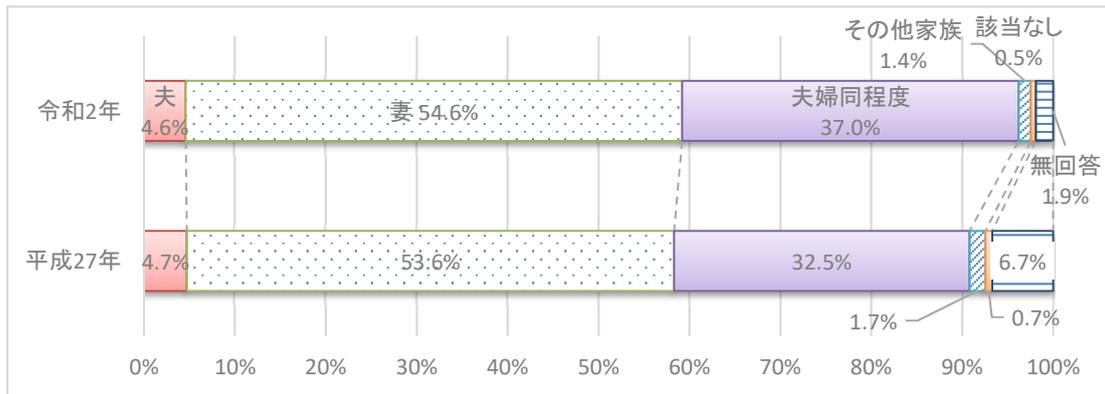
(4) 洗濯・掃除

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	夫	12	3.0%	13	3.5%
2	妻	298	73.9%	281	75.9%
3	夫婦同程度	60	14.9%	62	16.8%
4	その他家族	6	1.5%	5	1.4%
5	該当なし	2	0.5%	2	0.5%
	無回答	25	6.2%	7	1.9%
	合計	403		370	



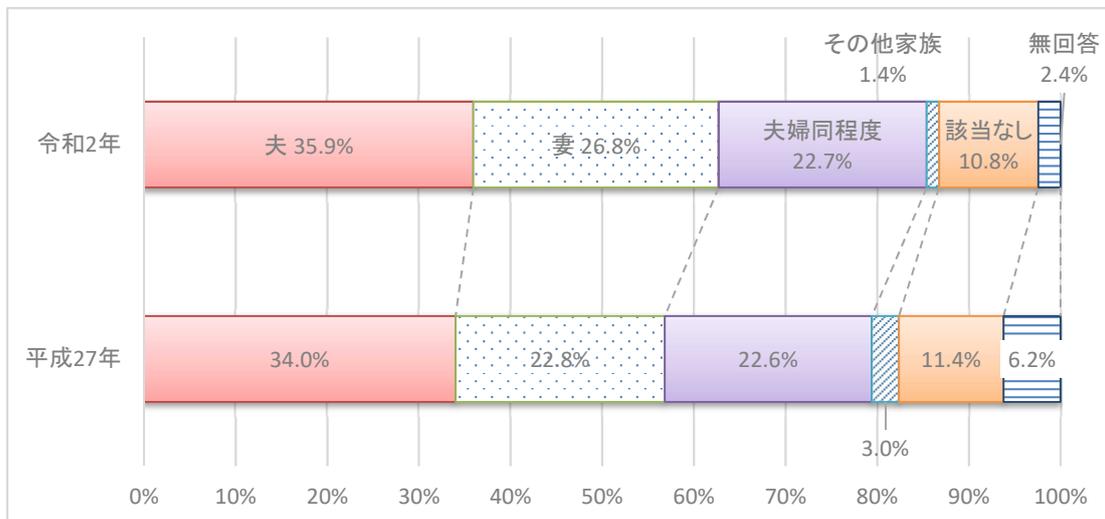
(5) 食料品・日用品の買い物

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	夫	19	4.7%	17	4.6%
2	妻	216	53.6%	202	54.6%
3	夫婦同程度	131	32.5%	137	37.0%
4	その他家族	7	1.7%	5	1.4%
5	該当なし	3	0.7%	2	0.5%
	無回答	27	6.7%	7	1.9%
	合計	403		370	



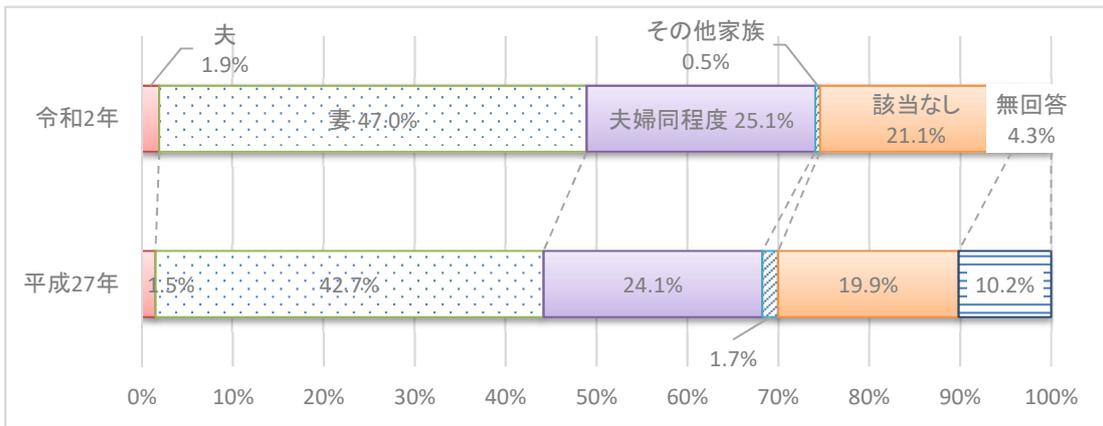
(6) 町内会などの地域活動

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	夫	137	34.0%	133	35.9%
2	妻	92	22.8%	99	26.8%
3	夫婦同程度	91	22.6%	84	22.7%
4	その他家族	12	3.0%	5	1.4%
5	該当なし	46	11.4%	40	10.8%
	無回答	25	6.2%	9	2.4%
	合計	403		370	



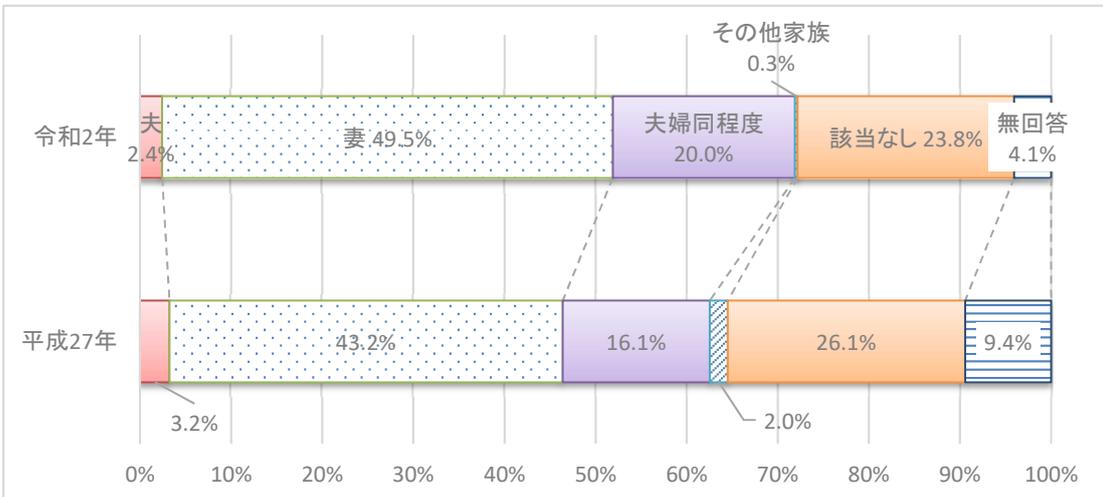
(7) 育児・教育

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	夫	6	1.5%	7	1.9%
2	妻	172	42.7%	174	47.0%
3	夫婦同程度	97	24.1%	93	25.1%
4	その他家族	7	1.7%	2	0.5%
5	該当なし	80	19.9%	78	21.1%
	無回答	41	10.2%	16	4.3%
	合計	403		370	



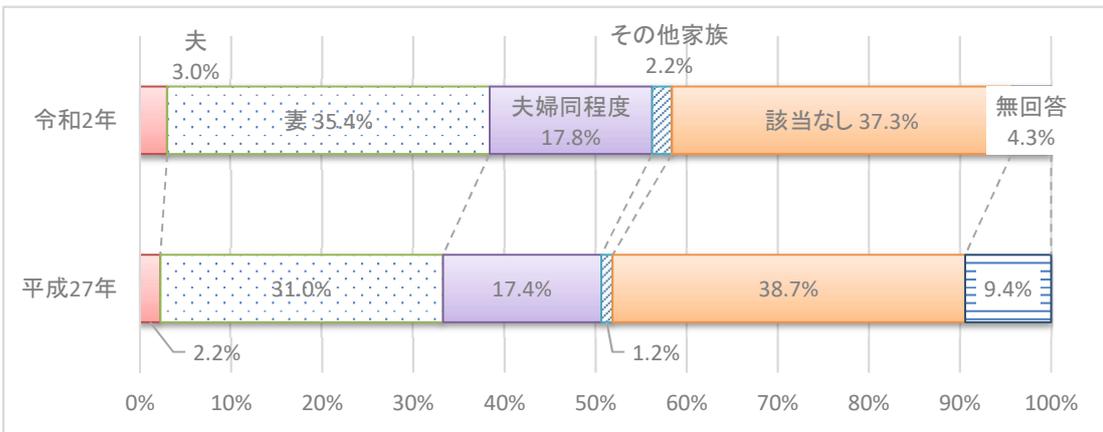
(8) 学校行事への参加

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	夫	13	3.2%	9	2.4%
2	妻	174	43.2%	183	49.5%
3	夫婦同程度	65	16.1%	74	20.0%
4	その他家族	8	2.0%	1	0.3%
5	該当なし	105	26.1%	88	23.8%
	無回答	38	9.4%	15	4.1%
	合計	403		370	



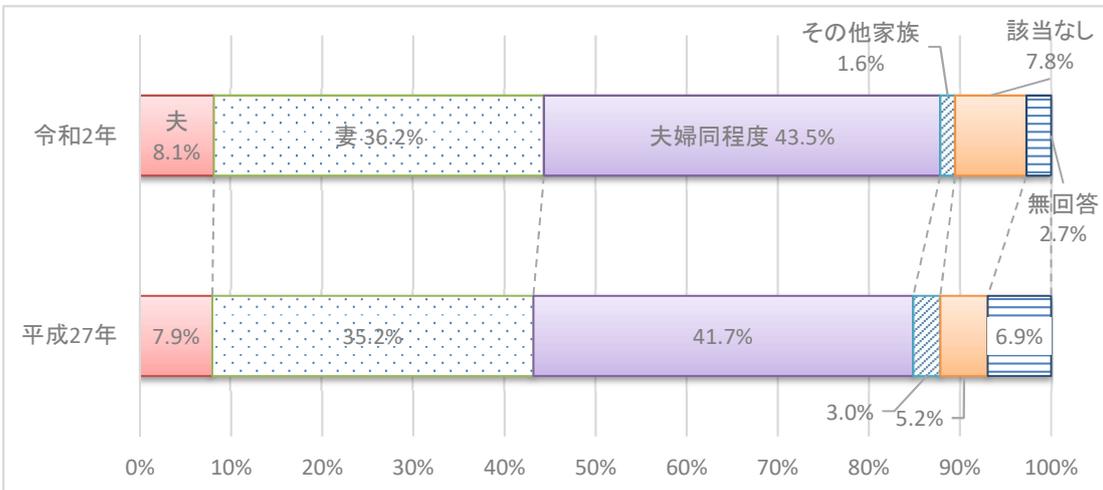
(9) 高齢者や病人の世話

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	夫	9	2.2%	11	3.0%
2	妻	125	31.0%	131	35.4%
3	夫婦同程度	70	17.4%	66	17.8%
4	その他家族	5	1.2%	8	2.2%
5	該当なし	156	38.7%	138	37.3%
	無回答	38	9.4%	16	4.3%
	合計	403		370	



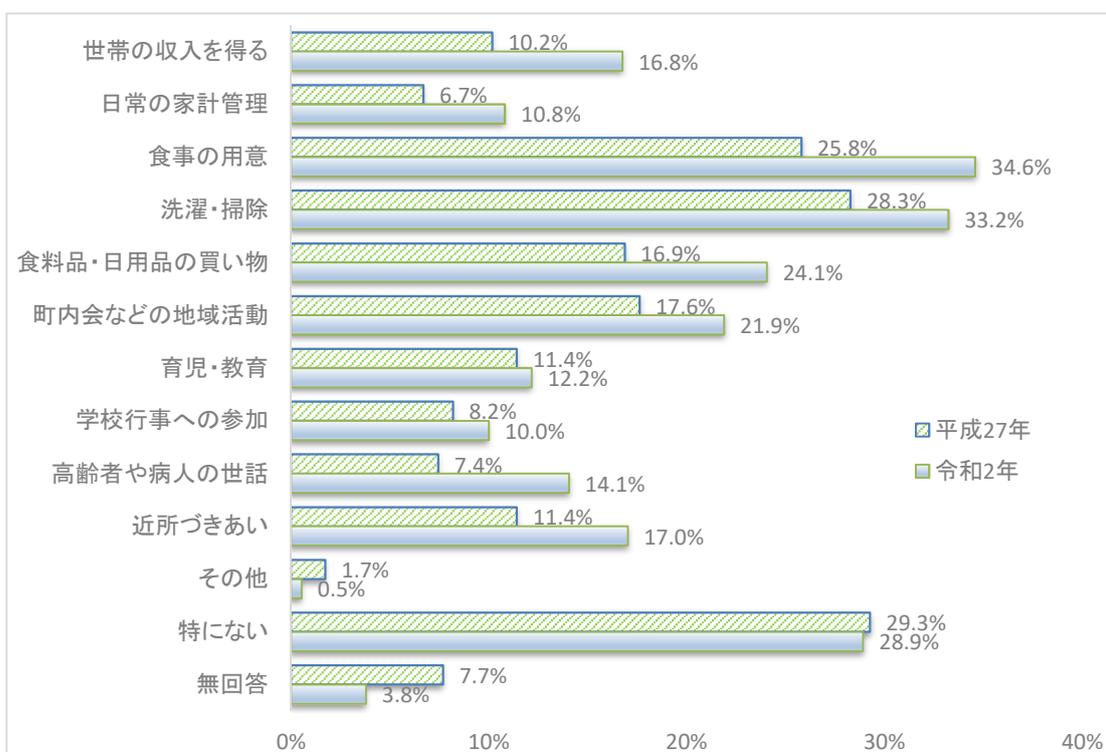
(10) 近所づきあい

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	夫	32	7.9%	30	8.1%
2	妻	142	35.2%	134	36.2%
3	夫婦同程度	168	41.7%	161	43.5%
4	その他家族	12	3.0%	6	1.6%
5	該当なし	21	5.2%	29	7.8%
	無回答	28	6.9%	10	2.7%
	合計	403		370	



問10. 問9で回答した方におききます。次のような日常的な仕事のうち【女性の方は】男性が今以上分担してほしいと思うもの【男性の方は】自分が今以上分担してほしいと思うもの【男性の方は】自分が今以上分担してもよいと思うものがありますか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	世帯の収入を得る	41	10.2%	62	16.8%
2	日常の家計管理	27	6.7%	40	10.8%
3	食事の用意	104	25.8%	128	34.6%
4	洗濯・掃除	114	28.3%	123	33.2%
5	食料品・日用品の買い物	68	16.9%	89	24.1%
6	町内会などの地域活動	71	17.6%	81	21.9%
7	育児・教育	46	11.4%	45	12.2%
8	学校行事への参加	33	8.2%	37	10.0%
9	高齢者や病人の世話	30	7.4%	52	14.1%
10	近所づきあい	46	11.4%	63	17.0%
11	その他	7	1.7%	2	0.5%
12	特にない	118	29.3%	107	28.9%
	無回答	31	7.7%	14	3.8%
	合計	403		370	

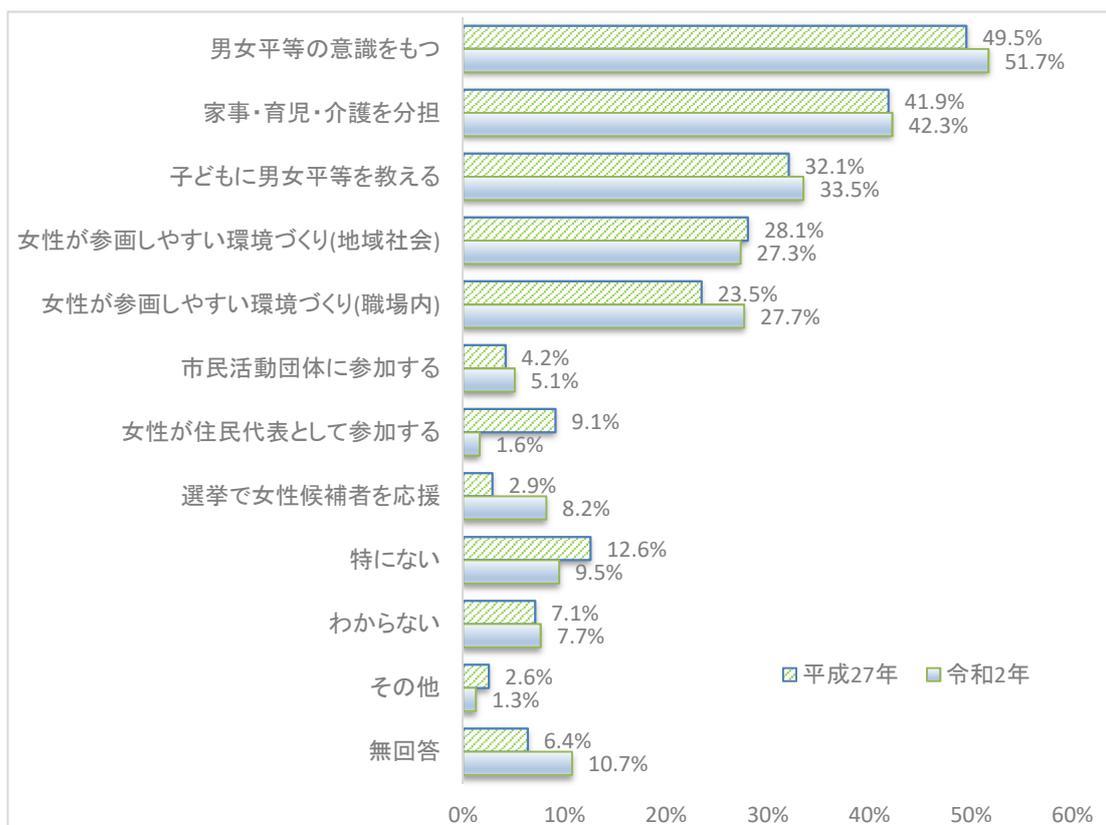


日常の仕事のうち、今以上に分担してほしい・分担してもよいと思う項目はなにか、という問いに対して、最も高い割合を占めているのが「食事の用意」34.6%、次いで「洗濯・掃除」33.2%となっています。

5 市民と行政の役割について

問11. あなたは男女共同参画をすすめるために、どのようなことを行いたいと思いますか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

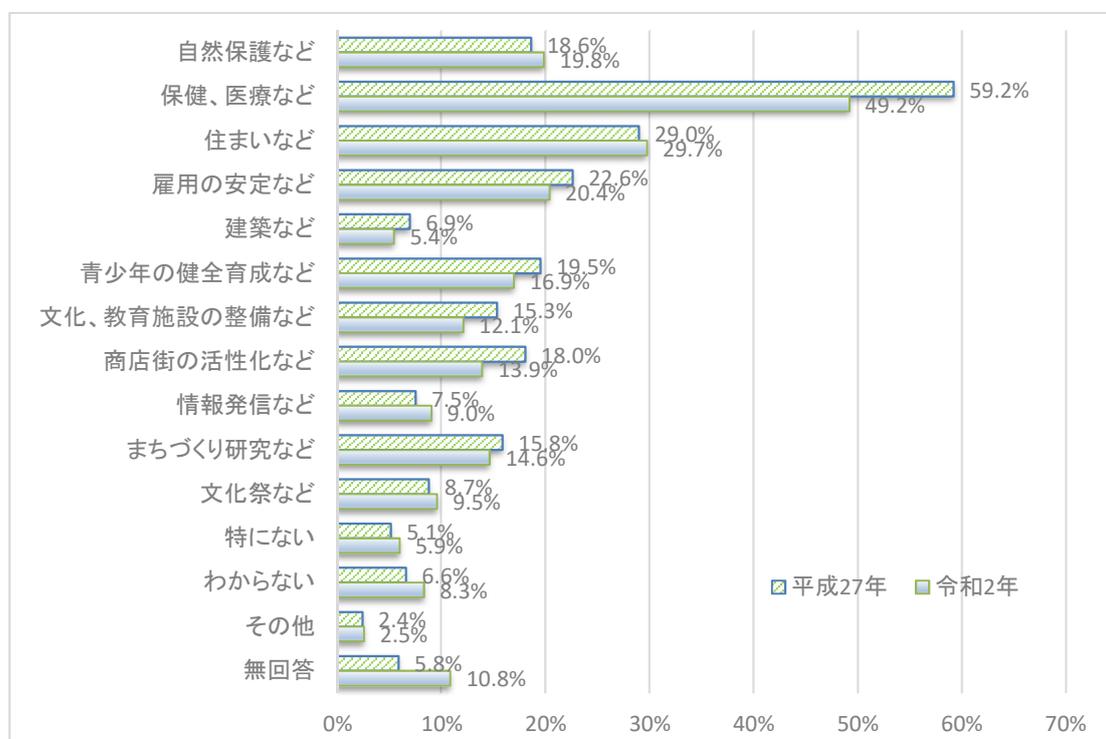
	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	男女平等の意識をもつ	272	49.5%	284	51.7%
2	家庭内で、家事・育児・介護などを分担する	230	41.9%	232	42.3%
3	子どもに対して、男女平等の大切さを教える	176	32.1%	184	33.5%
4	地域社会で、女性が参画しやすい環境づくりに努める	154	28.1%	150	27.3%
5	職場内で、女性が参画しやすい環境づくりに努める	129	23.5%	152	27.7%
6	女性の社会参画をすすめる市民活動団体に参加する	23	4.2%	28	5.1%
7	女性が審議会などに住民代表として参加する	50	9.1%	9	1.6%
8	選挙の際、女性候補者を応援する	16	2.9%	45	8.2%
9	特にない	69	12.6%	52	9.5%
10	わからない	39	7.1%	42	7.7%
11	その他	14	2.6%	7	1.3%
	無回答	35	6.4%	59	10.7%
	合計	549		555	



男女共同参画をすすめるために、どのようなことを行いたいのか、という問いに対して、「男女共同の意識をもつ」が最も多く、平成27年の調査から2.2ポイント増加し、51.7%となっています。

問12. あなたは行政において、どのような分野でより女性の視点を活かすべきだと思いますか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

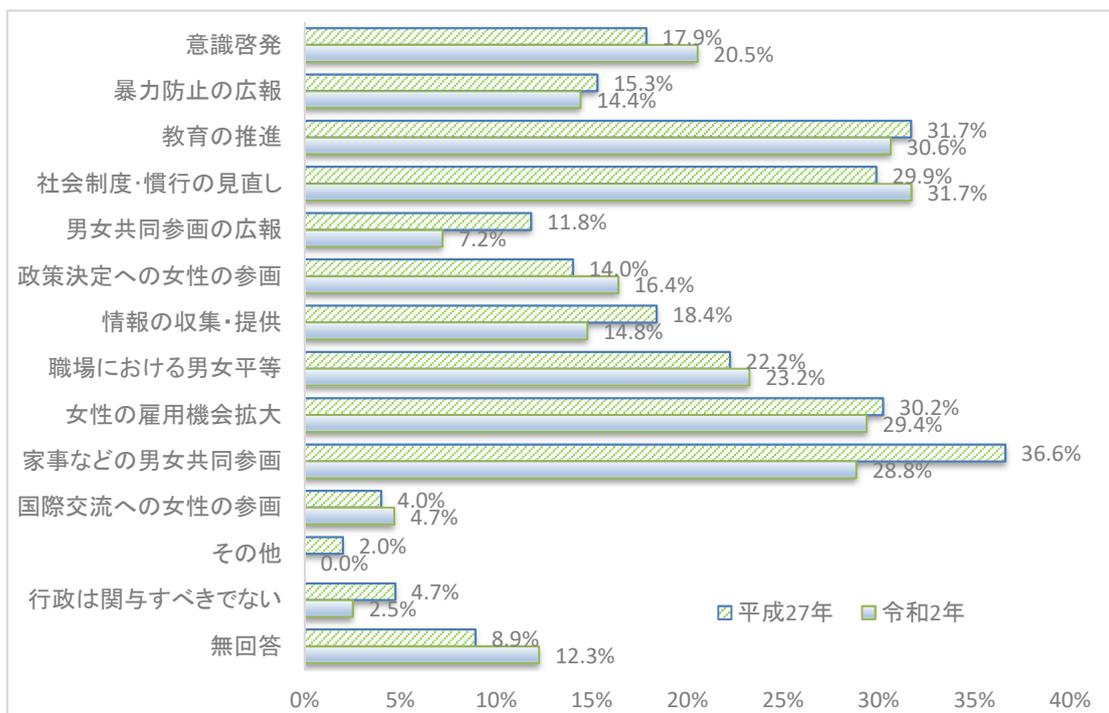
	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	自然保護、環境保全、リサイクルなど	102	18.6%	110	19.8%
2	保健、医療、保育、高齢者介護、障害者福祉など	325	59.2%	273	49.2%
3	住まい、防災、交通安全、ごみ、人権の保護、商品の安全性など	159	29.0%	165	29.7%
4	雇用の安定、就業能力の向上など	124	22.6%	113	20.4%
5	建築、都市計画など	38	6.9%	30	5.4%
6	青少年の健全育成など	107	19.5%	94	16.9%
7	文化、教育施設の整備、国際交流、スポーツ、レクリエーションなど	84	15.3%	67	12.1%
8	商店街の活性化、企業立地、観光、基幹産業づくりなど	99	18.0%	77	13.9%
9	情報発信、情報基盤など	41	7.5%	50	9.0%
10	まちづくり研究、計画検討の場への参加など	87	15.8%	81	14.6%
11	文化祭、体育祭、近所づきあいなど	48	8.7%	53	9.5%
12	特にない	28	5.1%	33	5.9%
13	わからない	36	6.6%	46	8.3%
14	その他	13	2.4%	14	2.5%
15	無回答	32	5.8%	60	10.8%
	合計	549		555	



どのような分野で女性の視点を活かすべきか、という問いに対して、最も多かったのが「保健・医療・保育・高齢者介護・障害者福祉など」で49.2% (H27調査59.2%)、次いで、「住まい・防災・交通安全・ごみ・人権の保護・商品の安全性など」で29.7% (H16調査29.0%)となっています。

問13. あなたは男女共同参画をすすめるために、今後、行政はどのような事業を展開すればよいと思いますか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	人権の尊重に関する意識啓発	98	17.9%	114	20.5%
2	あらゆる暴力の防止に関する広報・啓発	84	15.3%	80	14.4%
3	家庭・学校・地域における男女平等に関する教育・学習の推進	174	31.7%	170	30.6%
4	男女平等意識の形成と社会制度・慣行の見直し	164	29.9%	176	31.7%
5	男女共同参画に関する広報・啓発	65	11.8%	40	7.2%
6	審議会等の政策・方針決定過程への女性の積極的参画と登用促進	77	14.0%	91	16.4%
7	女性の人材に関する情報の収集及び提供	101	18.4%	82	14.8%
8	職場における男女平等の推進	122	22.2%	129	23.2%
9	女性の職業能力の開発と雇用機会の拡大	166	30.2%	163	29.4%
10	家事・育児・介護等への男女共同参画の推進	201	36.6%	160	28.8%
11	国際交流、国際協力活動への女性の参画促進	22	4.0%	26	4.7%
12	その他	11	2.0%	0	0.0%
13	家庭内やプライバシーに関する問題が多いので、行政はあまり関与すべきではない	26	4.7%	14	2.5%
	無回答	49	8.9%	68	12.3%
	合計	549		555	

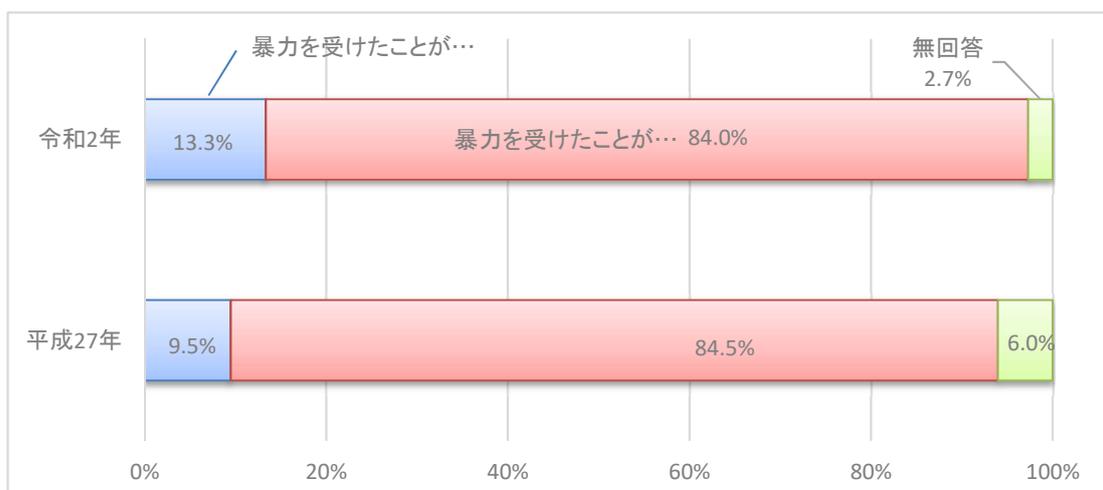


男女共同参画をすすめるために行政がすべきことは何か、という問いに対して、最も多い項目は、「社会制度・慣行の見直し」で31.7%(H27調査29.9%)となっています。次いで、「家庭・学校・地域における男女平等に関する教育・学習の推進」30.6%や「女性の職業能力の開発と雇用機会の拡大」29.4%の比率が高くなっています。

6 ドメスティックバイオレンス(DV)について

問14. あなたは配偶者やパートナー、交際相手から、ドメスティックバイオレンス(身体的・精神的・性的・経済的暴力)を受けたことがありますか。

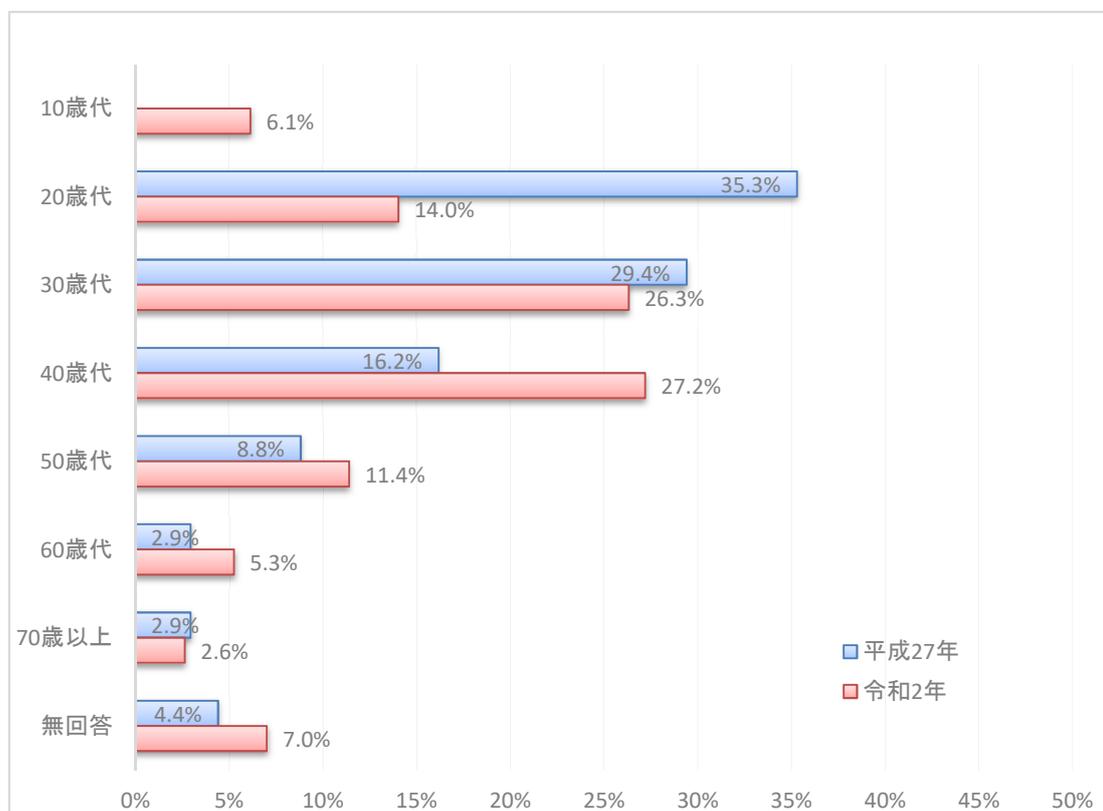
	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	暴力を受けたことがある	52	9.5%	74	13.3%
2	暴力を受けたことがない	464	84.5%	466	84.0%
	無回答	33	6.0%	15	2.7%
	合計	549		555	



ドメスティックバイオレンスを受けたことがあるか、という問いに対して、「暴力を受けたことがある」が13.3%(74人)、「暴力を受けたことがない」が84.0%(466人)となっており、DVを受けたことがあると答えた人が1割以上いる結果となっています。

問15. 問14で「1暴力を受けたことがある」を選んだ方にお聞きします。
 あなたが何歳の時にDVを受けましたか。当てはまる番号を選んでください。（複数回答可）

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	10歳代			7	6.1%
2	20歳代	24	35.3%	16	14.0%
3	30歳代	20	29.4%	30	26.3%
4	40歳代	11	16.2%	31	27.2%
5	50歳代	6	8.8%	13	11.4%
6	60歳代	2	2.9%	6	5.3%
7	70歳以上	2	2.9%	3	2.6%
	無回答	3	4.4%	8	7.0%
	合計	68		114	

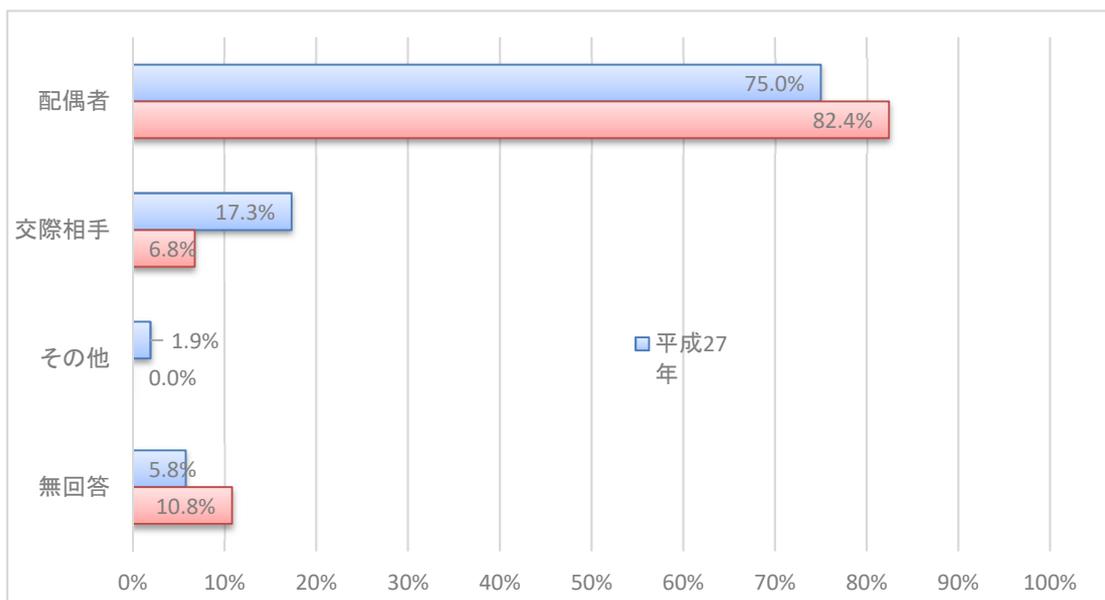


ドメスティックバイオレンスを受けた年齢について、「40代」が最も多く27.2%(31人)、次いで「30代」が26.3%(30人)となっています。

今回の調査から「10代」の項目を追加したので、平成27年の調査は回答なしとしています。

問16. 問14で「1暴力を受けたことがある」を選んだ方にお聞きします。
DV加害者はあなたからみてどの続柄になりますか。

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	配偶者、パートナー（事実婚等の関係）	39	75.0%	61	82.4%
2	交際相手	9	17.3%	5	6.8%
3	その他	1	1.9%	0	0.0%
	無回答	3	5.8%	8	10.8%
	合計	52		74	

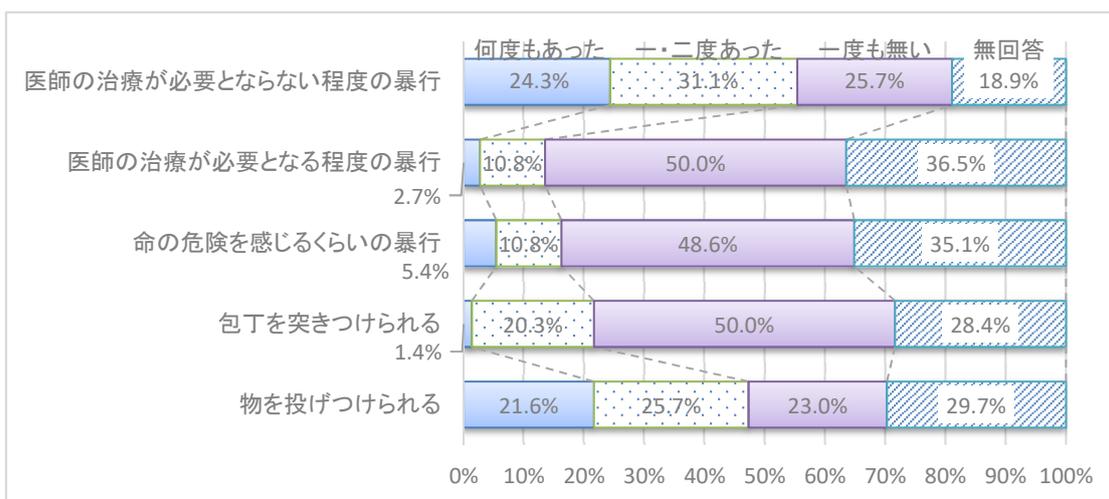


ドメスティックバイオレンスの加害者は、どの続柄ですか、という問いに対して、「配偶者・パートナー(事実婚等の関係)」が最も多く82.4%(61人)で、「交際相手」は6.8%(5人)となっています。

問17. 問14で「1暴力を受けたことがある」を選んだ方にお聞きします。
 あなたはどのようなドメスティックバイオレンスを受けましたか。
 当てはまる番号を選んでください。

(1) 身体的暴力

選 択 項 目	何度もあった	一・二度あった	一度も無い	無回答	合計
1 医師の治療が必要とされない程度の暴行	18	23	19	14	74
	24.3%	31.1%	25.7%	18.9%	
2 医師の治療が必要となる程度の暴行	2	8	37	27	74
	2.7%	10.8%	50.0%	36.5%	
3 命の危険を感じるくらいの暴行	4	8	36	26	74
	5.4%	10.8%	48.6%	35.1%	
4 包丁を突きつけられる	1	15	37	21	74
	1.4%	20.3%	50.0%	28.4%	
5 物を投げつけられる	16	19	17	22	74
	21.6%	25.7%	23.0%	29.7%	



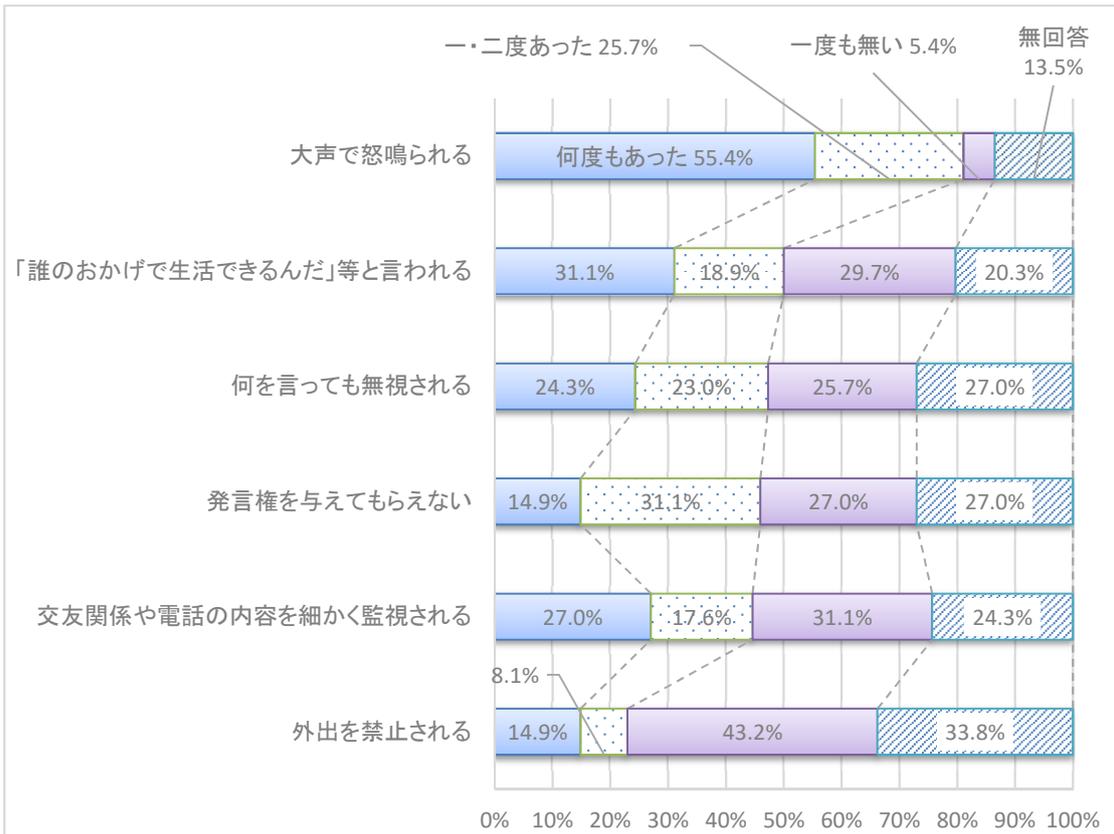
どのようなドメスティックバイオレンス(身体的暴力)を受けたか、という問いに対して、「医師の治療が必要とされない程度の暴行」が「何どもあった」と「一・二度あった」を合わせて41人、「物を投げつけられる」暴行が「何どもあった」と「一・二度あった」を合わせて35人となっています。

「医師の治療が必要となる程度の暴行」が「何どもあった」と答えた人が2人、「一・二度あった」と答えた人が8人となっています。

「命の危険を感じるくらいの暴行」や「包丁をつきつけられる」についても、「何どもあった」と「一・二度あった」を合わせるとそれぞれ10人以上の方が経験ありと答えており、深刻な問題となっています。

(2) 精神的暴力

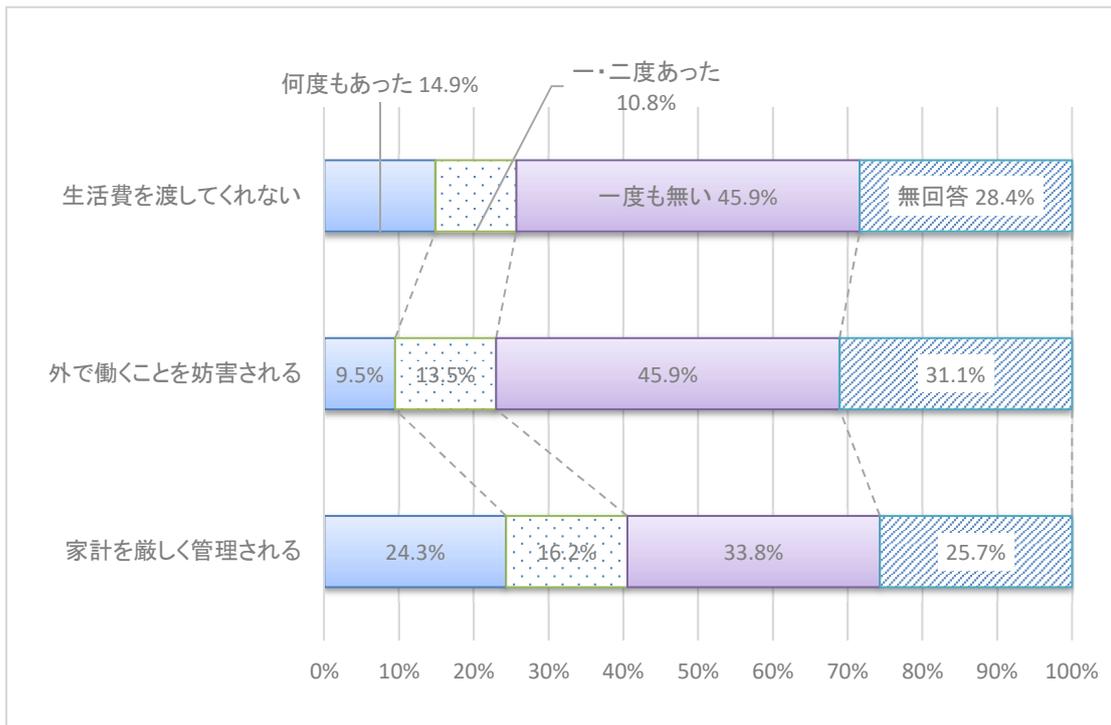
選 択 項 目	何度もあった	一・二度あった	一度も無い	無回答	合計
1 大声で怒鳴られる	41 55.4%	19 25.7%	4 5.4%	10 13.5%	74
2 「誰のおかげで生活できるんだ」、「甲斐性無し」等と言われる	23 31.1%	14 18.9%	22 29.7%	15 20.3%	74
3 何を言っても無視される	18 24.3%	17 23.0%	19 25.7%	20 27.0%	74
4 発言権を与えてもらえない	11 14.9%	23 31.1%	20 27.0%	20 27.0%	74
5 交友関係や電話の内容を細かく監視される	20 27.0%	13 17.6%	23 31.1%	18 24.3%	74
6 外出を禁止される	11 14.9%	6 8.1%	32 43.2%	25 33.8%	74



どのようなドメスティックバイオレンス(精神的暴力)を受けたか、という問いに対して、「大声で怒鳴られる」が最も多く、「何どもあった」と「一・二度あった」を合わせて60人となっています。次いで多い項目が、「誰のおかげで生活できるんだ」、「甲斐性無し」等と言われる」となっており、「何どもあった」と「一・二度あった」を合わせて37人となっています。

(3) 経済的暴力

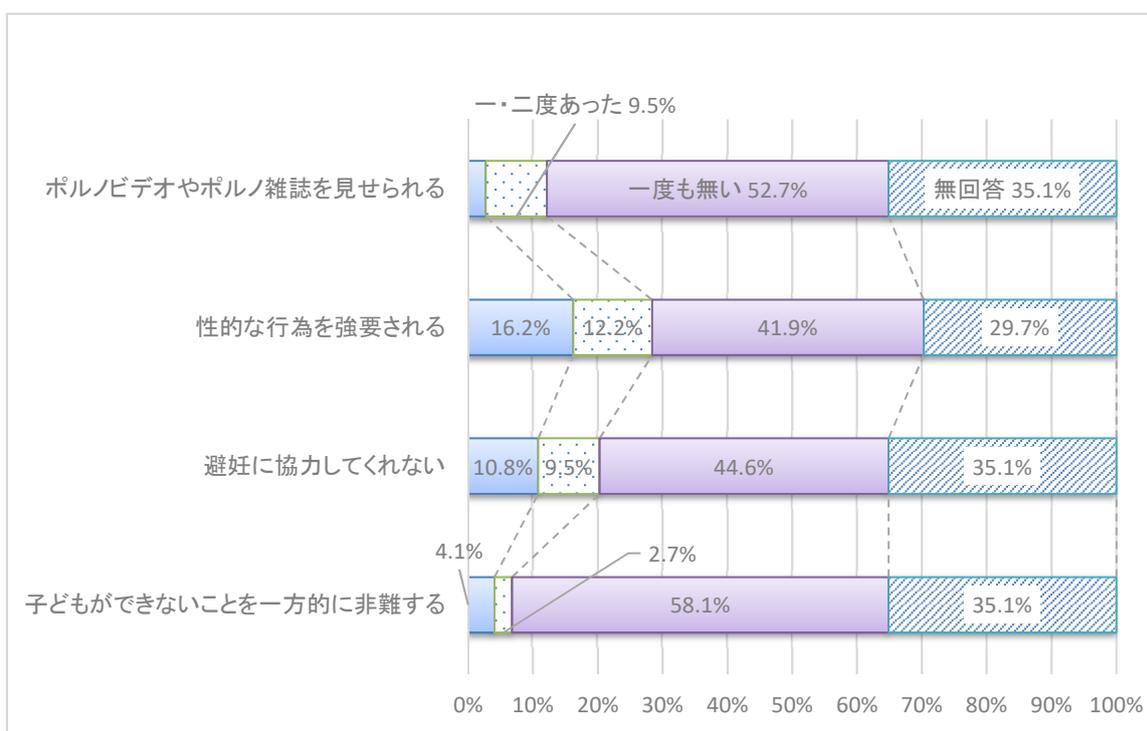
選 択 項 目	何度もあった	一・二度あった	一度も無い	無回答	合計
1 生活費を渡してくれない	11	8	34	21	74
	14.9%	10.8%	45.9%	28.4%	
2 外で働くことを妨害される	7	10	34	23	74
	9.5%	13.5%	45.9%	31.1%	
3 家計を厳しく管理される	18	12	25	19	74
	24.3%	16.2%	33.8%	25.7%	



どのようなドメスティックバイオレンス(経済的暴力)を受けたか、という問いに対して、「家計を厳しく管理される」が最も多く、「何どもあった」と「一・二度あった」を合わせて30人となっています。

(4) 性的暴力

選 択 項 目	何度も あった	一・二度 あった	一度も 無い	無回答	合計
1 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	2	7	39	26	74
	2.7%	9.5%	52.7%	35.1%	
2 性的な行為を強要される	12	9	31	22	74
	16.2%	12.2%	41.9%	29.7%	
3 避妊に協力してくれない	8	7	33	26	74
	10.8%	9.5%	44.6%	35.1%	
4 子どもができないことを一方的に非難する	3	2	43	26	74
	4.1%	2.7%	58.1%	35.1%	



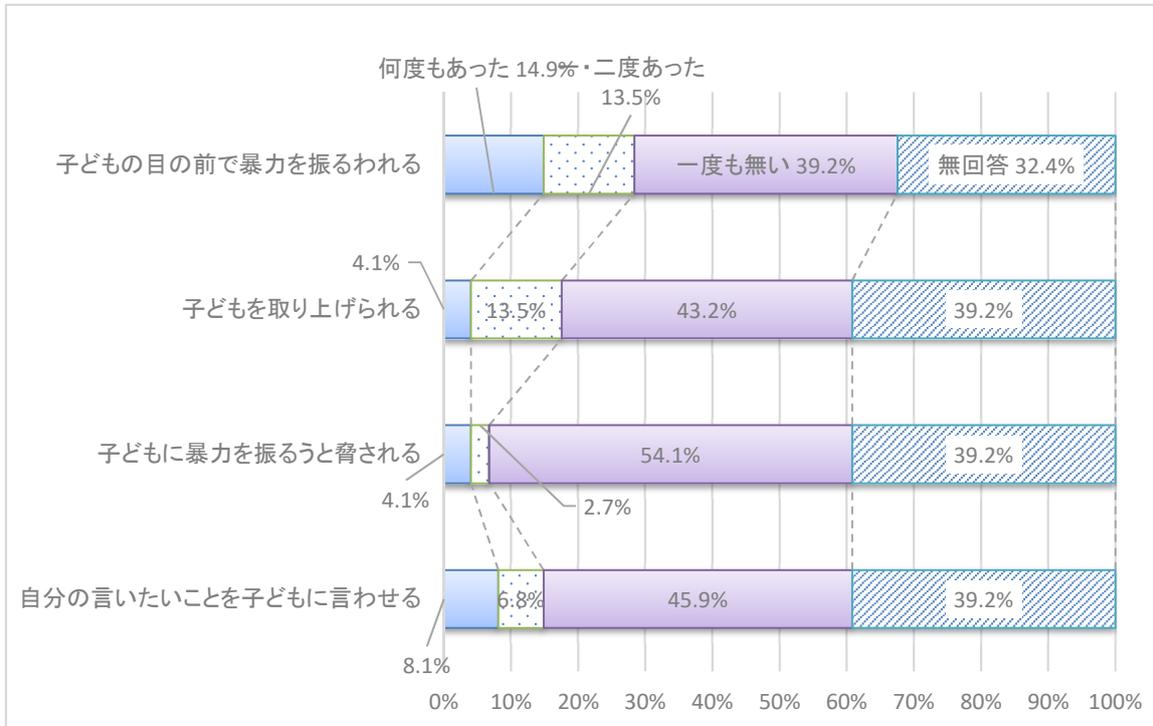
どのようなドメスティックバイオレンス(性的暴力)を受けたか、という問い

に対して、「性的な行為を強要される」が最も多く、「何どもあった」と

「一・二度あった」を合わせて、21人となっています。

(5) 子どもを巻き込んだ暴力

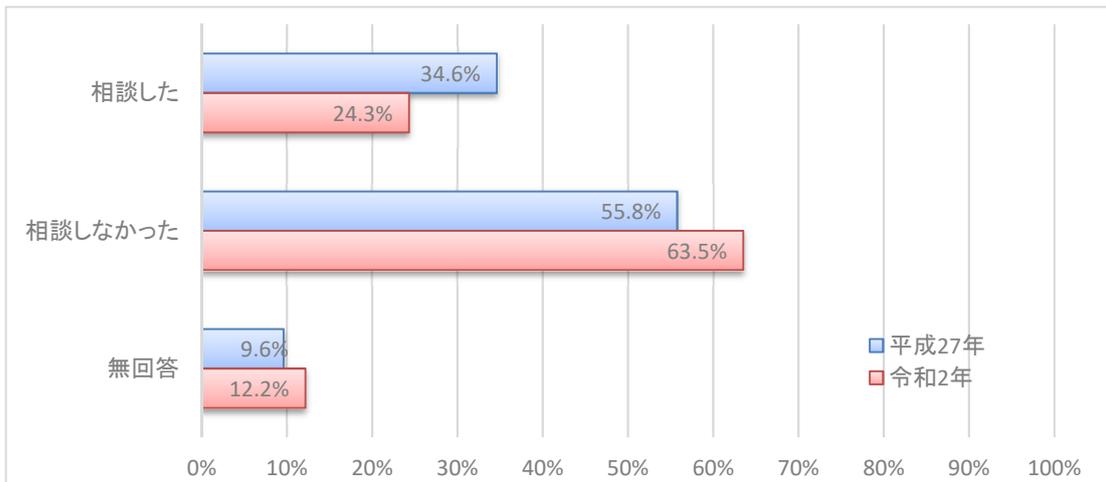
選 択 項 目	何度もあった	一・二度あった	一度も無い	無回答	合計
1 子どもの目の前で暴力を振るわれる	11	10	29	24	74
	14.9%	13.5%	39.2%	32.4%	
2 子どもを取り上げられる	3	10	32	29	74
	4.1%	13.5%	43.2%	39.2%	
3 子どもに暴力を振るうと脅される	3	2	40	29	74
	4.1%	2.7%	54.1%	39.2%	
4 自分の言いたいことを子どもに言わせる	6	5	34	29	74
	8.1%	6.8%	45.9%	39.2%	



どのようなドメスティックバイオレンス(子どもを巻き込んだ暴力)を受けたか、という問いに対して、「子どもの目の前で暴力を振るわれる」が最も多く、「何どもあった」と「一・二度あった」を合わせて、21人となっています。

問18. 問14で「1暴力を受けたことがある」を選んだ方にお聞きします。
あなたはDVを受けた時に相談しましたか。

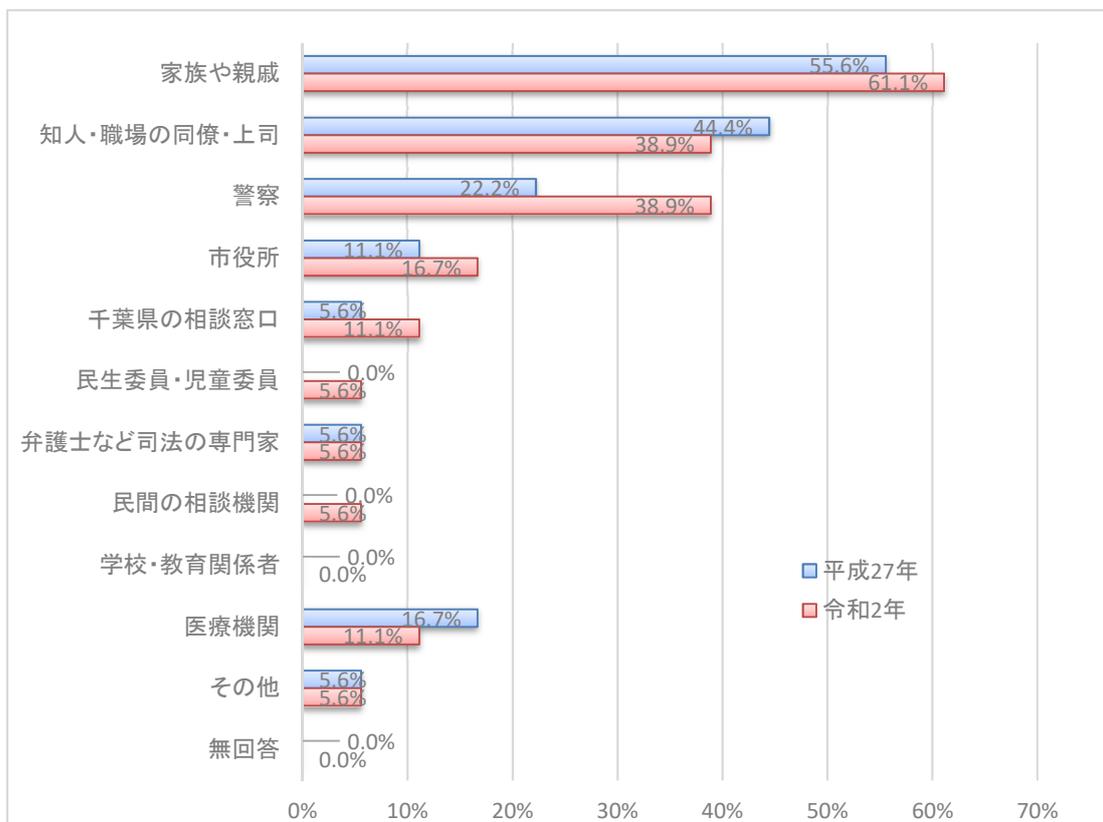
	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	相談した	18	34.6%	18	24.3%
2	相談しなかった	29	55.8%	47	63.5%
	無回答	5	9.6%	9	12.2%
	合計	52		74	



ドメスティックバイオレンスを受けた時に相談したか、という問いに対して、過半数の63.5%(47人)が、「相談しなかった」と答えています。

問19. 問18で「1相談した」を選んだ方におききします。DVを受けた時に相談した人(機関)について当てはまる番号を選んでください。(複数回答可)

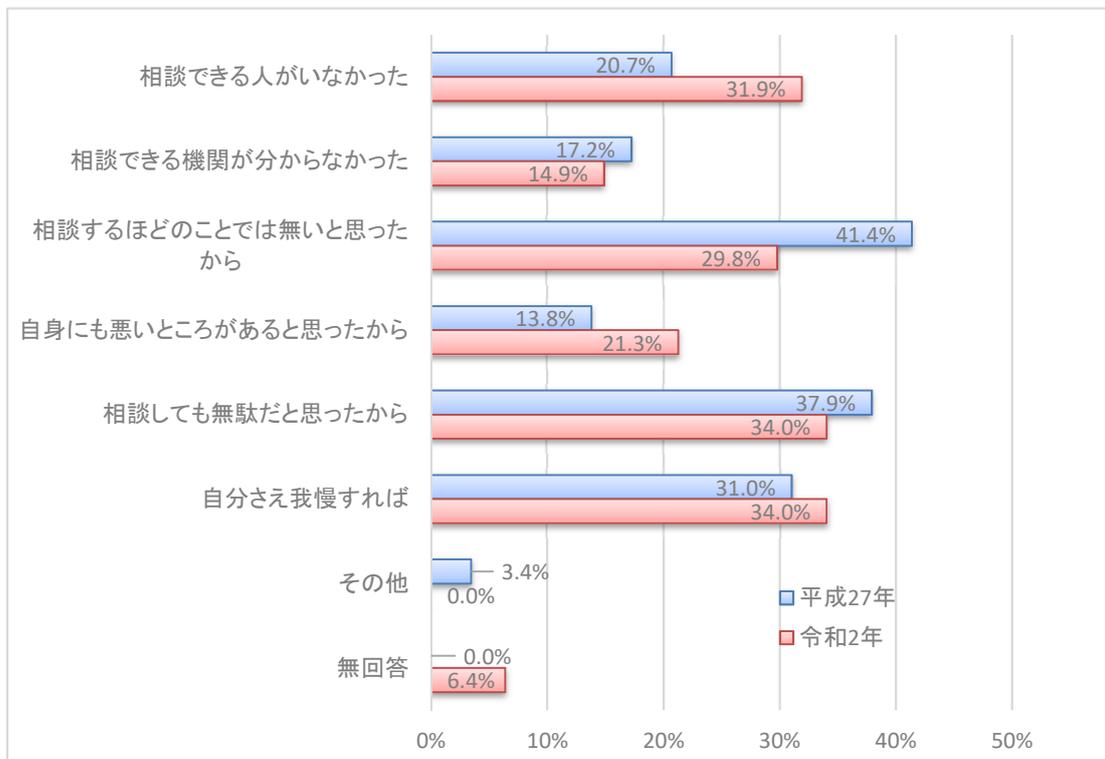
	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	家族や親戚	10	55.6%	11	61.1%
2	知人・職場の同僚・上司	8	44.4%	7	38.9%
3	警察	4	22.2%	7	38.9%
4	市役所	2	11.1%	3	16.7%
5	千葉県の相談窓口(配偶者暴力相談支援センター、千葉県女性サポートセンター)	1	5.6%	2	11.1%
6	民生委員・児童委員	0	0.0%	1	5.6%
7	弁護士など司法の専門家	1	5.6%	1	5.6%
8	民間の相談機関	0	0.0%	1	5.6%
9	学校・教育関係者	0	0.0%	0	0.0%
10	医療機関	3	16.7%	2	11.1%
11	その他	1	5.6%	1	5.6%
	無回答	0	0.0%	0	0.0%
	合計	18		18	



ドメスティックバイオレンスを受けた時に相談した人(機関)について、「家族や親戚」が最も多く61.1%(11人)、次いで「知人・職場の同僚・上司」と「警察」が38.9%(7人)の同数となっています。

問20. 問18で「2相談をしなかった」を選んだ方にお聞きします。相談しなかった理由について当てはまる番号を選んでください。（複数回答可）

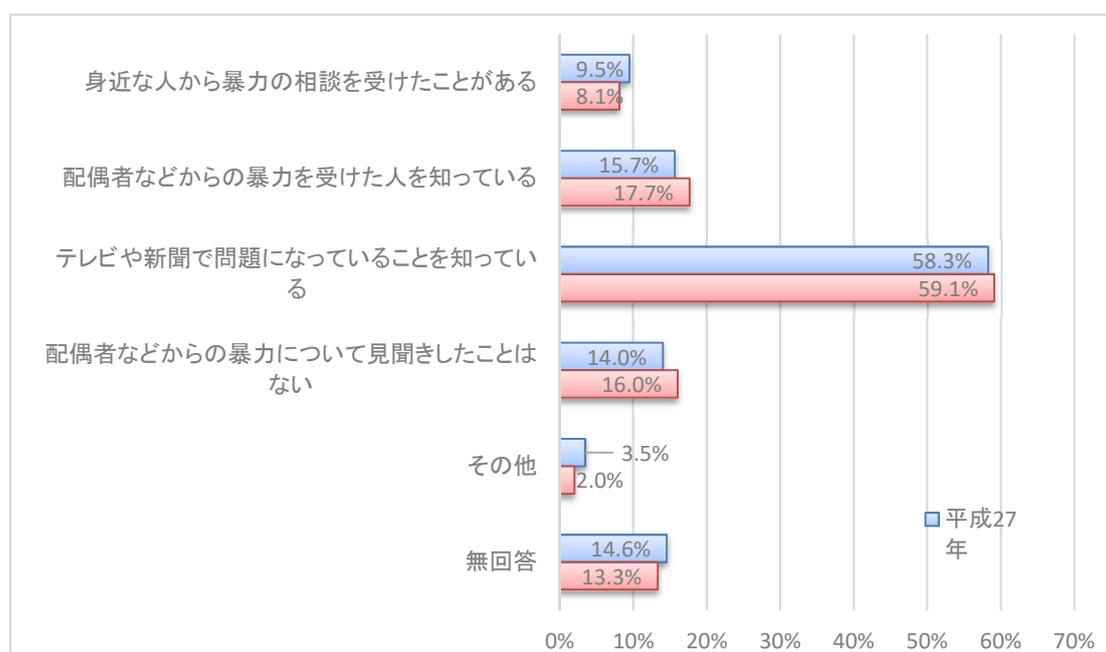
	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	相談できる人がいなかった	6	20.7%	15	31.9%
2	相談できる機関が分からなかった	5	17.2%	7	14.9%
3	相談するほどのことでは無いと思ったから	12	41.4%	14	29.8%
4	自身にも悪いところがあると思ったから	4	13.8%	10	21.3%
5	相談しても無駄だと思ったから	11	37.9%	16	34.0%
6	自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていたら良かったから	9	31.0%	16	34.0%
7	その他	1	3.4%	0	0.0%
	無回答	0	0.0%	3	6.4%
	合計	29		47	



ドメスティックバイオレンスを受けた時に相談しなかった理由について、「相談しても無駄だと思ったから」と「自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていたら良かったから」が同数で最も多く34.0%（16人）、次いで「相談できる人がいなかった」が31.9%（15人）になっています。

問2 1. あなたはドメスティックバイオレンスを見聞きしたことがありますか。
当てはまる番号を選んでください。（複数回答可）

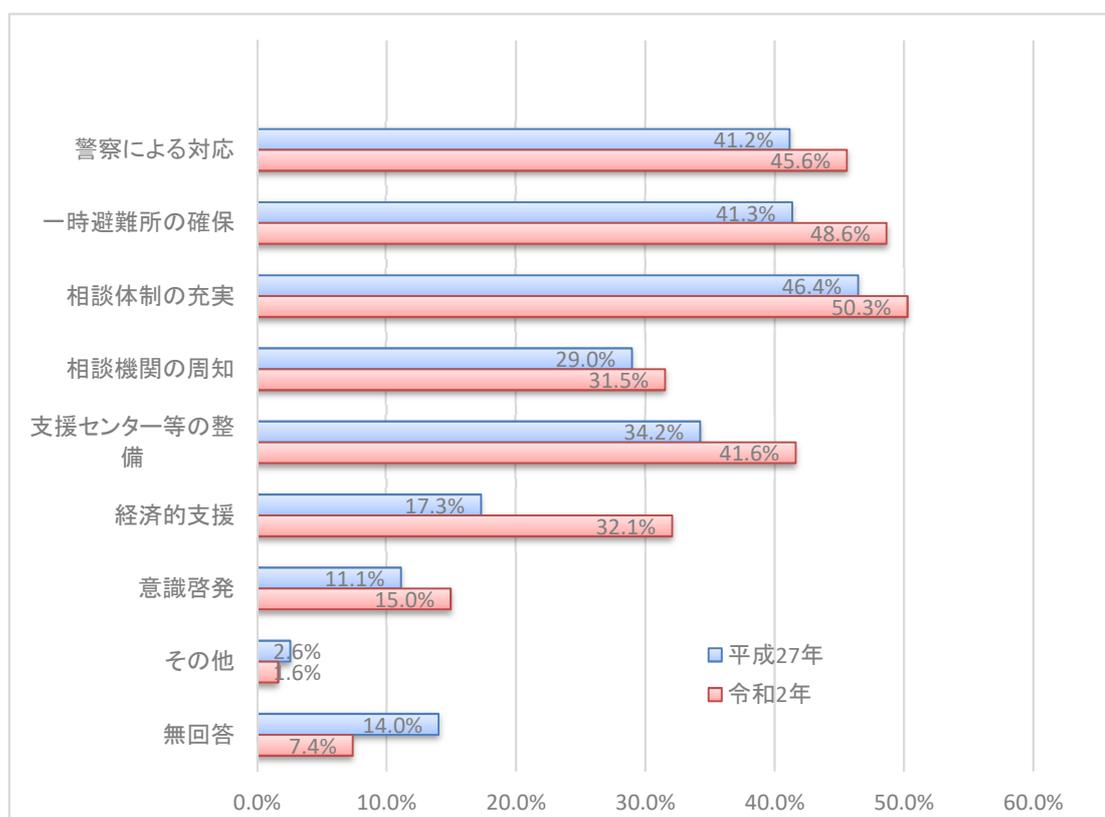
	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	身近な人から暴力の相談を受けたことがある	52	9.5%	45	8.1%
2	相談は受けたことがないが、配偶者などからの暴力を受けた人を知っている	86	15.7%	98	17.7%
3	配偶者などからの暴力がテレビや新聞で問題になっていることを知っている	320	58.3%	328	59.1%
4	配偶者などからの暴力について見聞きしたことはない	77	14.0%	89	16.0%
5	その他	19	3.5%	11	2.0%
	無回答	80	14.6%	74	13.3%
	合計	549		555	



ドメスティックバイオレンスを見聞きしたことがあるか、という問いに対して、「配偶者などからの暴力がテレビや新聞で問題になっていることを知っている」が59.1%(328人)となっており、最も多い結果となっています。次いで「相談は受けたことがないが、配偶者などからの暴力を受けた人を知っている」17.7%(98人)の順になっています。

問22. 行政のDV支援対応について望むものはどれですか。当てはまる番号を選んでください。(複数回答可)

	選 択 項 目	平成27年		令和2年	
		回答数	構成比	回答数	構成比
1	警察による対応	226	41.2%	253	45.6%
2	一時避難所の確保	227	41.3%	270	48.6%
3	相談体制の充実	255	46.4%	279	50.3%
4	相談機関の周知	159	29.0%	175	31.5%
5	支援センター等の整備	188	34.2%	231	41.6%
6	経済的支援	95	17.3%	178	32.1%
7	意識啓発	61	11.1%	83	15.0%
8	その他	14	2.6%	9	1.6%
	無回答	77	14.0%	41	7.4%
	合計	549		555	



行政のドメスティックバイオレンス支援対策について望むことは、という問いに対して、「相談体制の充実」が最も多く50.3%(279人)、次いで「一時避難所の確保」48.6%(270人)、「警察による対応」45.6%(253人)の順になっています。

第3章 自由意見(主なご意見)

- 男女平等は年々進んでいるという実感もあり非常に良いことだと思います。一方で、働きやすい環境、機会を権利として良いように利用、周知を顧みず利用する人もいます。環境、機会を主張し過ぎないバランス感覚を養うための教育も必要だと思います。【男性 30 歳代】
- 住みよい八街になることを望みます【女性 70 歳代以上】
- 男性も女性もお互いに尊重し合う事が大切だと思います。【男性 70 歳代以上】
- 男女共同参画アンケートの形だけに終わらず（このアンケートで）実行出来ることから直ぐ行動して欲しい。【女性 70 歳代以上】
- 女性もおおいに意識の変化が必要と思われる。【男性 50 歳代】
- 一概に男女平等に同じ事をするのはムリだと思うので、力の必要な事は男性が・・・とか、お互いに思いやりを持って協力してやっていくのが大切なのかなと思います。【女性 50 歳代】
- 性別の特性を十分考慮した上での男女同権、基本的人権尊重を念頭においての男女共同参画が重要です。【男性 70 歳代以上】
- 男女共同参画については学校での教育が重要である。当面公的機関での取り組みが必要である。【男性 70 歳代以上】
- 男女共同参画に伴い男女それぞれの良さであったり個々の違いを活かすことも同時に大切な事と思っています。【女性 60 歳代】
- 男女が平等という教育を受けていない世代がもっと学んでいくことではないのかと思います【女性 50 歳代】
- すでに出来上がった意識の人たちへの広報などよりも学校教育できちんと教えていく方が長期的には早い気がします。市に求めることは役所や町内会などでの組織づくりを考えるとときに女性の役職向上などを積極的に行ってほしい。八街は完全に男性が優位な社会になってます。【女性 40 歳代】
- 小さいうちから家庭や教育機関でも男女は平等なんだよと教えることが大切かなと思いました。これから家庭を持つ社会人も男女平等のセミナーなどを会社で行うと働きながら子育てしている方々に対して未婚者や子どもがいない人たちも少しは優しい目で見えてくれるようになり、働きやすい職場が増えていけばいいなとも思いました。【女性 30 歳代】
- 家庭内においても妻がやるのが当たり前の様で負担が多く、妻の私もフルで働

いているのにとあって辛くなる時があります。夫にももっと毎日家事をしてほしいです。【女性 50 歳代】

- 男女差別なく単に参加するではなく企画立案決定について意見を考え出し参画することが大事だと思います。【男性 70 歳代以上】
- 今回初めて「男女共同参画社会基本法」を知った。この法律は廃止すべきで、性別に関係なく全ての機会を平等とし、個人の意思を尊重すべきである。【男性 40 歳代】
- 年代により考えが違い、長男だから・・・とか男性が立場的に女性が弱い立場になり、経済的に自立できればもっと早くに離婚できたと思う。【女性 50 歳代】
- 男女平等は重要な考え方だが、得意、不得意な分野が性別でも分かれている場合もあると思う。ただし、女性を下に見る事が多い様に感じるの小さな又は小さい意見も耳を傾けて欲しい。【女性 50 歳代】
- 男女が全く格差のない社会を作ることは困難だと思います。特に会社という組織の中で生きるにはもっと理不尽な状況に耐える精神が必要です。男性は家族に甘えていますが、女性はまだ社会に甘えている傾向が多いです。とはいえ、考え方は昔より自由で複雑な社会になってきたので、男性がどうか、女性がどうかは今の30代以降の人間の為ではなく、10代~20代のこれからの人間の為により今の社会に適した人を教育する事が重要だと思います。そうすれば、男女平等の為の枠（ステージ）を行政が用意した時に、男女関係なく社会で活躍する事が出来ると思います。今の世の中は、権利だけを主張し、中身が伴っていない人間が多いので、行政がしっかりやっても変わらない気もします。【男性 30 歳代】
- 男女の良いところをお互いが尊重する事が大事です。男だから女だからではなく一人の人間として敬意を持つことが重要ではないでしょうか【男性 60 歳代】
- 私たち40歳代よりも上の層の方々には男女平等が広まっていないような気がします。特に区内の役職関連の資料を見たことがあります。内容は昔のままというか、区長や区長代理の奥様は大変だなあと感じました。やって当たり前というか、その意識すらないのだなあと。働く職場を整えることも大切ですが、地域からその辺りの方々にも考えて頂けると良いのでは？と思います。【女性 40 歳代】
- 七五三、端午の節句、ひな祭、女の子は赤いランドセル、男の子は黒いランドセル・・・と、日本には幼い頃から男女の違いを意識させる行事や思い込みが多くある。この中で男女平等を根付かせるのはなかなか難しいと思うが、大人が

意識的に自分の常識を変える努力をすることは大切だと思う。性別ではなく個性を重視する。【女性 60 歳代】

- 自分たちの権利の主張だけでなく、各個人がもっと政治に関心を持ち普段の生活に取り込むことを願います。【男性 70 歳代以上】
- 男女平等な社会になるのは難しいと思います。各企業のトップの考え方から変わらないとダメだと思います。【女性 50 歳代】
- 男女平等が良いのかもしれないが、男の人の方が仕事の負担も多いし、ある程度は仕方がないと思う。女の人で家庭よりも仕事をとる人は男の人と同じで頑張っていて欲しいと思う。【女性 40 歳代】
- 多くを望まなくなっている【性別無回答 年齢無回答】
- もともと持っている男女の力が平等に計れないのでなかなか平等は難しいのだと考えてますが、政策をする（議員とか国、県、市、町）人たちがまず男女の比率が半々位で話し合い出来るなら両視点の意見があってより男女平等に近い環境になるのではないかなと思います。+若い人たちの意見（柔軟な考え）をもっと取り入れられたら良いのかも【女性 40 歳代】
- 八街市も若い方達の為にどんどん新しいことを進めて欲しい。若い方が住みたいと思う街へ。【女性 70 歳代以上】
- 「男女共同参画」が法律（制度）となっていて、これに違反する場合には罰則があるということなのではないでしょうか？性別による差別を禁じているのは憲法であって、審議会によって少しずつご理解をいただくような問題ではないと思います。【男性 70 歳代以上】
- 女性には妊娠、出産という女性しかできないことがある。もちろん妊娠、出産を選択しない人生もあるが……。妊娠、出産はどうしても仕事を持つ女性にとって心身ともに負担となることが多い。実際、マタニティハラスメントのある会社もいまだにある。（職業柄よく話を聞く）妊娠、出産があってもなくても女性が社会進出できる環境があれば安心して妊娠、出産にのぞめるし、選択しない女性に対しても、もっと活躍できると思う。そして仕事をしながらの子育ては男女の協力が不可欠であり、その姿を子どもに見せることが男女平等の意識を持たすことができるのではないかと考える。ただ、妊娠、出産を機に家庭に入るという女性もあり、女性の意識も変わらないと本当の意味で男女の平等は難しいかな??【女性 40 歳代】
- 若い頃つらい思いをしたのでこれからの人たちに少しでも良い生活ができるように支えて行って欲しい。きちんとした相談ができる組織を作って欲しいと思

ます。【女性 70歳代以上】

- 社会的活動をする時間は少ないです。親と子どもを背負っているのです。仕事か家庭か寝るか以外の時間が取れません。【女性 50歳代】
- 特に男女不平等と感じる事もない中でこのようなアンケートを「抽出した人」という理由で書かされる事の方が不愉快です。このアンケートに答える為に30分は時間を要しました。現在、このようなプライベートなことを聞く場合、謝礼などがある場合が多い中、ただ封筒を送りつけてくる安易な行動が腹立たしいです。また、無記名だから迷惑はかけないとのことですが、ならばなぜDVの件などを聞くのでしょうか？本当に救ってあげたいと思っただけのことでしょうか？私はDVなどは一切受けていませんが、本当にDVに悩んでいる方が、こんなに沢山の紙面を読んできちんと書くのでしょうか？疑問がかなり多く残りましたので書かせて頂きましたが、市民意識調査等を行いたいのであればまず周知して頂きたいですし、ネット上で出来るような工夫も必要かと思えます。このアンケートをもう少し書く側が書きたくなるような工夫をして頂きたいなと思っています。【女性 40歳代】
- 男女共同参画は良いと思いますが、さらに婚期が遅れ結婚する人が減るのは？【男性 50歳代】
- 男女共同参画についての学校教育をやってもらいたい【男性 60歳代】
- やはり、保育園の充実だと思います【女性 60歳代】
- 現在私は学生ですが、就職している知人からよくセクハラについて聞くのでどうにかしてあげてほしいと思いました。学校で教えたりと言った思考を強制してしまうようなやり方はあまりよくないと思います。市民団体とではなく行政として行ってほしいです。DVに関しては選択肢以外に性を軸として親子でもあることだと思いますのでそのあたりもきちんと考えてあげてほしいです。市民団体などとの協力は表面的には良いことのように見えますが、そのようなものの大半がある一定の思想をもった人の集まりであるから、一方からの見方でしかなくなってしまう可能性があったり、その方向性が自らに利益を与える別の団体が入っていきたりと不透明性が増すのでよくないと思う。【男性 20歳代】
- 男性だけでなく女性の意識も変わらないといつまでたっても古い考えのままだと思う。30、40代女性が子どもといて当たり前という女性が田舎にはまだいるので、子どものいない夫婦もいるし、失礼の意識が足りない。【女性 40歳代】
- 犯罪を犯す者の90%以上が男です。弱者いじめのない教育を幼少の頃から教育すべきです。【女性 50歳代】

- 質問内容に疑問に思うところがおおい。今ひとつ問いかけに工夫をしてほしい。男性優位に作られた（全て）社会。男性が作ったの（法律）ですから、大いに改良すべきと思っている。【女性 70歳代以上】
- 男女共同参画に限らず何をやっているのか知らないことばかりなので何をやっているのかももっと周知に力を入れて欲しい【男性 30歳代】
- 車がなくても生活の出来ない環境からバス等の交通機関をみなおして魅力ある市・活気ある市に全市民の力を結束して進みたいものです【女性 70歳代以上】
- もっとやってほしいです【男性 40歳代】
- DV被害防止対策に力を入れるべきだと思う【男性 30歳代】
- 家庭や地域といった小さな集団から共同参画に対する意識を高める必要があり「男社会」を改める必要があると思っています。【男性 60歳代】
- 男性側の意識ばかりが注目されがちですが「男女共同参画」をのぞまない女性の存在が根深い問題だと感じています。男女関係なく「意欲のある人」が能力を高め活躍できる社会（能力の高い人ではないです！！）になったらよいと感じます。男女共にいろんな考えの人がいる、いろんなライフスタイルがあることを互いに認め合える社会にしていきたいです。（男女平等＝男女共同参画ではないと考えているので）【女性 40歳代】
- 社会の在り方（理念）として「男女共同参画」は強調されるべきですが、その理念の具現化は「女性が出産しやすく」また「育児がしやすい」社会作りとして収斂されるのだろうと私は考えています。行政は、そのためによりよい「制度」と達成するための「予算」とを立案し実行していくことが望まれます。この流れがスムーズに行き渡って言った時に、少子高齢で行き詰まった社会が徐々に調整され、健康的で伸びやかな社会へとつながっていくはずだと私は思っています【男性 60歳代】
- 差別化なしで取り込んでください。【男性 50歳代】
- 人の意識はなかなか変わらない。「男女共同」であることは理解できていると思うが「男を立てる」等々昔からの感性を変えていかないと無理ではないか。上に立つ人間程もっと研修が必要だと思う。【女性 60歳代】
- 共同参画は推進すべき事ですが、肉体的、精神的に” 区別 ” しなければならない業務があります。その部分について、正しく認識した対応が求められると考えます。【男性 60歳代】
- 男女平等については、核家族と親・兄弟と一緒に暮らす場合では考え方も立場も違ってくるのでこの紙面の回答には答えきれないものを感じる。（嫁の立場を

守る事が少なすぎる)【女性 60歳代】

- 今まであまり男女不平等と感じたことがなく、夫婦でもお互いが出来る時に出来る事をしてきたようです。何でも得意のある人は、男女は関係なくできると思います。小学校からの教育で道徳を教える時間を作ってやっていい事、悪い事を教えてほしいと思います。【女性 60歳代】
- 街作りが男性目線のものばかりのように感じる。意見をあげにくい子育て中(子育てで手が離せず)の女性が求めるものがなかなか取り入れられない。(榎戸駅にあんなにお金をかけるよりも、安心して歩ける歩道や公園にかけてほしい。)【女性 30歳代】
- 家庭環境や経済状況、仕事等でそれぞれ意見が違ってくると思うが、とても大事なことであることは間違っていないと思う。がんばって取り組みをしてもらいたい。【男性 40歳代】
- 女性が「参画する事が面倒」と思っていると思う。ずるい!!【男性 70歳代以上】
- 今回のアンケートの主旨が見えません。市として何をやりたくて今回のアンケートをこの時期にするか?他がやっているからという程度の話ならば意味がない。八街市として何かをやりたい、変えたいからやるのでなければ結果もフォローもないと思っている。【男性 70歳代以上】
- 女性の化粧は学生時代は禁止されているが社会人になった途端マナーとして求められる。このような不文律な習慣から男女の不平等を感じる。【女性 20歳代】
- 女性は女性同士、男性は男性同士でまとまってしまうと男女共同参画はうまくいかない気がします。女性同士でまとまってしまうわないよう、女性側の意識改革も必要だと思います。【男性 40歳代】
- 男女平等などに対してはは良いと思います。ただ、男性と女性では身体の作りが大きく違います。そういった面で平等を続けていくには、差別とは違う区別がある程度必要であると思います。【男性 20歳代】
- 世間で話題になっている「ポテサラ論争」のように高齢男性の意識改革が非常に重要だと感じています。【女性 40歳代】
- 目標を持って、その目標に男女で意見、協力して成し遂げる社会づくり【男性 50歳代】
- 地域でも職場でも自己本意でんはくお互いの良さを活かしていこうとする意識を持つこと、持ってもらう施策、高揚させることが大切と考えます【男性 70歳代以上】

- お互いが敬いの心を持つことが大切ですが、特に男性は女性に対して敬う心を常に持たなければならないと思います。【男性 50 歳代】
- 良いことだと思います。男性・女性・強者・弱者など相手の立場になって考えることが大事だと思います。70年の人生での思いはやはり男性は優しく大変な事も多く、女性は守られているような気がします。男は女を守り、女は男を助ける（少し古い考えかな？）でも基本だと思います。お互いに思いやりがあればそれが男女公平につながると思います。【女性 70 歳代以上】
- 人生70年過ごしてきましたが、男性脳、女性脳の違いがあることをテレビなどで知りました。まだまだ知らないことが多くあることを知りました。男性・女性考えていることが同じではないこと、理解できないことが多くあります。【女性 70 歳代以上】
- 私自身40代ですが40代以降の年代の方々は男女平等という意識が低いように思います。具体的な良い案は浮かびませんが、40代以降の男女平等意識は改善していく必要があるように感じられます。【女性 40 歳代】
- 力仕事は男性教員みたいな雰囲気をやめてほしい。全員で協力すればすぐ終わることなのに・・・なんとかして欲しいです。【男性 20 歳代】
- 仕事は個人個人の自分に合った職場に【性別無回答 年齢無回答】
- チャンスを与えること。能力を見極められる人材を創ること【男性 70 歳代以上】
- どの部分からどのように改善しようと考えているのか（国、自治体）分からないので、まずその周知から必要【女性 40 歳代】
- 小学生の通学時の帽子や、中高生の制服、まだまだ「見た目」だけでも平等にはなっていないと感じる。効率は男女とも同じでも良いのでは？と思うので、そういった所から性への偏見をなくし、同じように扱われる事を望みます。【女性 40 歳代】
- 仕事と家庭の両立支援環境が整い、男女がともに働き易い職場環境が確保されることによって、ともに子育てや教育に参加出来る体制の構築が必要不可欠である。【男性 60 歳代】
- 職場では不十分ながら議論や改善がすすんでいるように思います。町内会の役員を経験しましたが、町内会活動や、市政への参画などに関しては、改善の余地が大きいと感じています。教育や啓発ももちろん大切ですが、具体的な施策を実行していく段階にきていると思います。【男性 60 歳代】
- 教師のレベルが低すぎるように思います。サラリーマン化して教育者ではない

所が問題ではないのでしょうか？【女性 60 歳代】

- 話し合いの場を積極的に男女老若共に【男性 70 歳代以上】
- 男性も家事や育児を抵抗なく行うには子どもの頃からそういった習慣の中で育てることが必要だと思います。【女性 50 歳代】
- 人それぞれと思うのでその人にあった方策をしてほしい【男性 60 歳代】
- 昔に比べれば大分平等になっている【女性 70 歳代以上】
- ①個のアンケートは男女比が同じか、もしそうでなければ同率で行うべき②担当部署の長は女性になるべき【男性 60 歳代】
- 会議等があるとすすんで茶を淹れる女性がいる。負担とも思わずニコニコとされていてあたたかさを感じる。しかし、同じ女性の立場からするとこれで良いのか慣習というものの根深さと意識化の強制力というものを感じて疑問に思うことがある。【女性 60 歳代】
- 「参画」はとても良い考えだと思うが、自分自身がするとなると二の足を踏んでしまうでしょう。それと、産まれた時から市内に住んでいる型と移り住んで来た方と田舎に行けば行くほど考えに差が生まれるのでは？それを打ち破る強いリーダーがいればと思います。【女性 60 歳代】
- 誰に相談すればいい、相手に言わない方法はないのか。報復が怖い。【男性 40 歳代】
- 「働き手がない」という前に人口の半数を占める女性の存在をもっと考えてみるべきだ。行政側に本気が見られない。民間は言うまでもない。何年かかっているんだ、本当はやる気ないだろ？【男性 40 歳代】
- 50 歳くらいまでは問 18②にしたとおり、今考えるとコントロールされていたんだなと思いました。私のような人を出さないようにしてほしいです。今更ですが、こういう調査を自分の時代にしてほしかったです。【女性 60 歳代】
- 男女の体力の差は同じくならない為、差が縮まる事がないので出来るだけ近づける事が大事だと思う【男性 60 歳代】
- 体力的にも弱い女性を逆に甘やかさない。チャホヤしない、させない。男性と同じ事をやらせる。男性も女性と同じ事をやらせる事。【男性 40 歳代】
- 離婚していますが、「一親」とでも、男と女の場合の社会、学校、生活全て立場が違います。男はやらなくていい、女はやる。女でも私一人の働き（少なくないですが）で食べているのに、仕事を休んで参加とかあるので困ります。【女性 40 歳代】
- 職場ではセクハラ（性的行為強要）やパワハラが沢山ある。上が男女不平等の

50代前後のため意識の根本から直さないと改善されない。地域や家庭でもまだ男女不平等が残っている。女性も生き生きと働けるような社会にしていきたい。

【女性 30歳代】

■ 今後の社会では共同参画も大いにありと思います。【女性 70歳代以上】

■ 男女はそもそも体のつくりや脳が違うもの。ヒトにとって、男女平等は無理がある考えだと思っています。40代以降については無理矢理な意識改革、子供たちにとっては”男女平等”を洗脳すること、すなわち教育が必要だと思っていますが、いずれ男女平等社会が確立したときの、男性、女性が受けるストレス等についても研究が必要と考えます。【女性 40歳代】

■ 男女共同参画が有ることを市民の方に理解していただく【男性 60歳代】

■ ・性別に関係なく、能力ある人が参画できる世の中であるべき。・自分たちの子育て時代に比べると、今はかなり良くなっている。恵まれているともいえると思う。行きつく所は責任感であり、すべてを行政に頼るといのはどうかと考える。

【男性 60歳代】

■ 女性だから・・・という調査が不平等を感じました。個の尊重、個性重視、男女ないと思います。ジェンダーもしかりです。【女性 40歳代】

■ 男女共同参画といわれているが、男性も女性に対してやっぱりできないんだらうと思うところがあるのでは。また、女性も男性にしかできないと思うところがあり、この意識を変える必要があると思う。【男性 50歳代】

■ それぞれの持ち味を生き生きと活かせる場が必要だと感じています。【男性 60歳代】

■ 自治会から推薦してもらうなど幅広い人材の参加が良いと思う【男性 60歳代】

■ 男女という考え方よりひとりの人間として社会のかかわり方を考えるべき。男が得意な仕事とか女の得意な仕事というのではなく、人間として個性を生かし、社会に参画することが大切。【女性 60歳代】

■ 市民の声から企画、実行を実践、そうした事で今回のアンケートは大変良いと思う。【男性 60歳代】

■ 男女平等が当たり前になっていけば、女性が子育て、妊娠・出産・仕事もしやすくなるし、男性も協力的になっていけば、DVなどが起こりにくくなると思います。【女性 20歳代】

■ 区長は男性がほとんど。小学校PTA会長は男性がほとんど。中学、高校も女性もいるが男性が多い。PTA役員はほとんどが女性。市民の公共的な役は八街

はまだまだ。【女性 60 歳代】

- 男女の差別がなく全員の方の平等を願います。【性別無回答 年齢無回答】
- 男女平等といっても性のあり方がちがいます。(男性に出産はできないなど) 画一的に平等でない。そんな方法があるとよいと思います。【女性 70 歳代以上】
- 別になし【男性 60 歳代】
- 政治分野で男女共同参画に関する法律が施行されましたが、実際に少ないので男性の方ももう少し女性をサポートする環境が必要だと思う【女性 60 歳代】
- 男女共同参画には賛成です。【女性 70 歳代以上】
- 女性も活躍して欲しい。【男性 50 歳代】
- 正直なところ、今の成人以上の人々では難しいと思ういます。小さい頃からの教育が大切と思います。【男性 40 歳代】
- 男性は「男女平等」と言うと少しは意識するものの、女性は「控えめ」な気持ちが形成されてきており、困難であるため、意識改革できる施策が必要と考えます。【男性 70 歳代以上】
- 理想と現実異なる【女性 30 歳代】
- 若いときに(働いているとき)参加出来ていたら全体に対してのチェックが全然違ってきます。残念です。結婚後も共働きで、子どもを育てながら、パート等で働きました。【女性 70 歳代以上】
- なぜ八街は畑ばかりであまりにも店とか当たり前に昔からないのか。もう少しでも色々やる事をやってほしいです。【女性 50 歳代】
- 全国的な意識調査(男女別・年代別・エリア別)を実施し、その結果を広く発表し、男女平等意識の啓発につなげていく。【男性 60 歳代】
- 体に対しての待遇ではなくて、本人の意思を考慮した社会環境作りの方がもっと良い社会になると思う。男の仕事、女の仕事、中間の仕事、たくさんの選択から最も良い環境を【性別無回答 30 歳代】
- 良い企画があったとしてもデスクワークやPCに触れる機会が中々ないと、その企画案が知らないまま終わっている事もあったりする。この男女共同参画についても同様の事が言えます。どうか市民の皆に案、案件が知れる方法を考えて欲しい。【女性 50 歳代】
- 八街の方は自己中心的な人が多いと感じます。新しい事には拒否反応を示し、昔ながらのやり方だけが正しいと思っている人が多いので、意識が変わらない限り、将来は望めません。【女性 60 歳代】
- 外で父親が8h仕事してきて、家では24h働いている母親がいる事をもっと

世の中に知って欲しい。【女性 20 歳代】

- 20 数年以上も前に話題になっていた会議があまり進んでいないのに驚きました。お互いに同性同士が足をひっぱっているのではと思いました。【女性 70 歳代以上】
- 男女共同参画も計画的にはいいと思いますが、もっともっと大切な事と必要とされている問題あるはず。優先順位的にどうなのかな？八街は遅れている。先見の目を持って、迅速に行動をおこしてほしい。【女性 60 歳代】
- 集計結果を分析し、基礎資料にするとのことですが、現在の大人の考え方を基本的にはすぐに変えられないと思います。そこで将来に向けて全ての子どもに対し、保育園、幼稚園等における幼児教育から始め、いじめ、暴力や地球にやさしい環境問題について、やさしく教育して、みんながやさしい大人になれば良いなと思います。超長期計画を掲げて実行出来たら男女共同参画社会に関する件も他の問題も緩和でき、明るい幸せな人生を送れる町になるのではないかと思います。現状のままでは・・・。担当の係の方々お疲れ様です。【男性 70 歳代以上】
- ひとりひとりの豊かな人生の為によろしくお願い致します。【女性 50 歳代】
- 昔よりも男女共同参画について知られてきていると思うが、まだまだ全体的に見ると女性の負担や不利に感じる事もあると思う。男女それぞれに合った部分を見つけて平等に迎えたら良いと思うが、根気よく若者から教育などを通して意識を変えていければ良いと思う。DVについてはいろいろな事件・問題で知られて来ているがまだまだDVから逃げても再度戻り同じ事を繰り返している人が多く、どうしても周りの人間が対応しても、本人同士しか出来ない事が多く、結局DVを受けている人のケアをする前にDVをする人に負け戻ってしまうことが多いと感じる。DV避難、保護された後の受けている人、する人、それぞれのケアをしなければ、する人が自由な為再発率が高い（どうしてもことわれない為戻ってしまう為）避難したとしても経済的に厳しく戻ってしまう事も多いため、DVを受けた人へ戻らなくてもよいケアが出来て行けたらよいのではと思う【女性 40 歳代】
- 公務員ですが管理職はやはり男性の方が早くなつたと思います。能力など「？」と思われる方もです。人事担当の方の意識をかえなければいけないのではないのでしょうか。【女性 60 歳代】

男女共同参画社会に関する市民意識調査

～みなさまのご意見をおきかせください～

男女平等と人権の尊重についておたずねします

※すべての方

問1. あなたは現在、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(1)から(9)のそれぞれについて、あてはまる番号をひとつずつ選んでください。

	優男 遇性 さの れ方 てが い非 常に	れ男ど て性ち いのら の方か がと 優い 遇え さば	平 等	れ女ど て性ち いのら の方か がと 優い 遇え さば	優女 遇性 さの れ方 てが い非 常に	わ か ら な い
(1) 家庭生活の場で	1	2	3	4	5	6
(2) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(3) 職場で	1	2	3	4	5	6
(4) 地域活動・社会活動の場で	1	2	3	4	5	6
(5) 法律や制度のうえで	1	2	3	4	5	6
(6) 政治や意思決定の場で	1	2	3	4	5	6
(7) 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
(8) 男性の意識の中で	1	2	3	4	5	6
(9) 女性の意識の中で	1	2	3	4	5	6

※すべての方

問2. あなたは「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どのように思っていますか。あてはまる番号をひとつ選んでください。

1. 賛成である 2. どちらかといえば賛成である 3. どちらかといえば反対である 4. 反対である
5. わからない

学校教育についておたずねします

※すべての方

問3. あなたは男女共同参画をすすめるためには、学校教育の場で何が重要だと思いますか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

1. 男女平等についての授業を行うこと
2. 男女平等についての子ども向け、家庭向けのパンフレットを作成すること
3. 名簿や教室内の座席について、男女を分けないこと
4. 家庭科などを通じて性別にかかわらず家庭生活に必要な技術を教えること
5. 性別にかかわらず、児童・生徒の個性や能力に応じた進路指導を行うこと
6. 互いの性を尊重しあうことや子どもを産み育てることの責任と大切さを教えること
7. 女性の校長や教頭を増やすこと
8. 校長や教員などに対し、男女平等についての研修を行うこと
9. その他()

※すべての方

問4. あなたは子どもに将来どの程度の教育を受けさせたい(受けさせなかった)と思いますか。男の子の場合と女の子の場合それぞれあてはまる番号をひとつずつ選んでください。

男の子の場合

1. 中学
2. 高校
3. 専門学校
4. 短期大学
5. 四年制大学
6. 大学院
7. その他()

女の子の場合

1. 中学
2. 高校
3. 専門学校
4. 短期大学
5. 四年制大学
6. 大学院
7. その他()

就労についておたずねします

※すべての方

問5. あなたは現在の女性は働きやすい環境にあると思いますか。あてはまる番号をひとつ選んでください。

1. はい → 問5-1へ
2. いいえ → 問5-2へ
3. どちらでもない → 問6へ

※問5で「1. はい」を選んだ方

問5-1. 現在の女性は働きやすい環境にあると思うのはどのような理由からですか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

1. 働く場が多い
2. 労働環境が整っている
3. 育児・子育て支援制度が整っている
4. 介護・高齢者支援制度が整っている
5. 昇進・研修等に男女の差がない
6. 結婚・出産退職の慣行がない
7. 家族の理解・協力が得やすい
8. 技能・資格等を活かすことができる
9. あらゆる面で男女平等が図られている
10. その他()

※問5で「2. いいえ」を選んだ方

問5-2. 現在の女性は働きやすい環境にないと思うのはどのような理由からですか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

1. 働く場が限られている
2. 労働環境が整っていない
3. 育児・子育て支援制度が整っていない
4. 介護・高齢者支援制度が整っていない
5. 昇進・研修等に男女の差がある
6. 結婚・出産退職の慣行がある
7. 家族の理解・協力が得にくい
8. 技能・資格等を活かすことができない
9. 女性に対する偏見がある
10. その他()

※すべての方

問6. あなたは次のなかで、女性の仕事に対するあり方でどれが最も望ましいと思いますか。あてはまる番号をひとつ選んでください。

1. 仕事をもち続けるタイプ(継続型)
2. 結婚を機に仕事をやめるタイプ(結婚退職型)
3. 出産を機に仕事をやめるタイプ(出産退職型)
4. 仕事は続けるが子育ての時期は一時やめて家庭にいるタイプ(中断再就職型)
5. 結婚してからまたは子育てが終わってから仕事を始めるタイプ(中途就職型)
6. 仕事はしないタイプ(専業主婦型)
7. その他()

※すべての方

問7. あなたは女性が職場で役職に就くことについて、どのようにお考えですか。あてはまる番号をひとつ選んでください。

1. 意欲と能力のある女性は、どんどん役職に就いてほしい
2. 女性の特徴を活かしたり、女性の多い職場で役職に就いた方がよい
3. 女性も役職に就いた方がよいが、自分の上司は男性がよい
4. 現状では、役職に就くことができる経験や能力を備えた女性が少ない
5. 家事や子育て、介護などの負担が大きいため、女性が役職に就くのは難しい
6. その他()

※すべての方

問8. あなたは男女がともに働きやすい職場をつくるためには、どのようなことが大切だと思いますか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

1. 男女で仕事の内容に差があるなど、男性中心の職場運営を見直す
2. 賃金や昇進など、職場における男女平等をすすめる
3. 残業を減らすなど労働時間を短くする
4. 在宅勤務やフレックスタイム制(※3)などを導入する
5. パートタイム労働者や派遣社員など労働条件を改善する
6. 育児休業や介護休業をとりやすい職場環境をつくる
7. 再就職準備のための講座や職業訓練を行う
8. 結婚や子育てなどで退職した後の再雇用制度を充実する
9. 仕事や職場環境についての相談窓口を充実する
10. わからない
11. その他()

家庭生活についておたずねします

※現に婚姻をしている方(事実婚を含む。)

問9. あなたの家庭では、次の役割を主にどなたが担当していますか。(1)から(10)のそれぞれについて、あてはまる番号をひとつずつ選んでください。

	夫※	妻※	夫婦※同程度	その他家族	該当なし
(1)世帯の収入を得る	1	2	3	4	5
(2)日常の家計管理	1	2	3	4	5
(3)食事の用意	1	2	3	4	5
(4)洗濯・掃除	1	2	3	4	5
(5)食料品・日用品の買い物	1	2	3	4	5
(6)町内会などの地域活動	1	2	3	4	5
(7)育児・教育	1	2	3	4	5
(8)学校行事への参加	1	2	3	4	5
(9)高齢者や病人の世話	1	2	3	4	5
(10)近所づきあい	1	2	3	4	5

※夫婦には、それぞれ同居のパートナーを含みます。

※現に婚姻をしている方(事実婚を含む。)

問10. 次のような日常的な仕事のうち【女性の方は】男性が今以上分担してほしいと思うもの【男性の方は】自分が今以上分担してもよいと思うものがありますか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

1. 世帯の収入を得る 2. 日常の家計管理 3. 食事の用意 4. 洗濯・掃除 5. 食料品・日用品の買い物
6. 町内会などの地域活動 7. 育児・教育 8. 学校行事への参加 9. 高齢者や病人の世話
10. 近所づきあい 11. その他() 12. 特になし

市民と行政の役割についておたずねします

※すべての方

問11. あなたは男女共同参画をすすめるために、どのようなことを行いたいと思いますか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

1. 男女平等の意識をもつ
2. 家庭内で、家事・育児・介護などを分担する
3. 子どもに対して、男女平等の大切さを教える
4. 地域社会で、男女平等な環境づくりに努める
5. 職場内で、男女平等な環境づくりに努める
6. 男女共同参画をすすめる市民活動団体に参加する
7. 審議会などに住民代表として参加する
8. 選挙の際、男女共同参画に関連した公約を掲げる候補者を応援する。
9. 特にない
10. わからない
11. その他()

※すべての方

問12. あなたは、どのような分野でより女性の視点を活かすべきだと思いますか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

1. 自然保護、環境保全、リサイクルなど
2. 保健、医療、保育、高齢者介護、障がい者福祉など
3. 住まい、防災、交通安全、ごみ、人権の保護、商品の安全性など
4. 雇用の安定、就業能力の向上など
5. 建築、都市計画など
6. 青少年の健全育成など
7. 文化・教育施設の整備、国際交流、スポーツ、レクリエーションなど
8. 商店街の活性化、企業立地、観光、基幹産業づくりなど
9. 情報発信、情報基盤など
10. まちづくり研究、計画検討の場への参加など
11. 祭事、地域行事など
12. 特にない
13. わからない
14. その他()

※すべての方

問13. あなたは男女共同参画をすすめるために、今後、行政はどのような事業を展開すればよいと思いますか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

1. 人権の尊重に関する意識啓発
2. あらゆる暴力の防止に関する広報・啓発
3. 家庭・学校・地域における男女平等に関する教育・学習の推進
4. 男女平等意識の形成と社会制度・慣行の見直し
5. 男女共同参画に関する広報・啓発
6. 審議会等の政策・方針決定過程への女性の積極的参画と登用促進
7. 女性の人材に関する情報の収集及び提供
8. 職場における男女平等の推進
9. 女性の職業能力の開発と雇用機会の拡大
10. 家事・育児・介護等への男女共同参画の推進
11. 国際交流、国際協力活動への女性の参画促進
12. その他()
13. 家庭内やプライバシーに関する問題が多いので、行政はあまり関与すべきではない

DV(ドメスティックバイオレンス)についておたずねします

※すべての方

問14. あなたは配偶者やパートナー、交際相手から、DV(身体的・精神的・性的・経済的暴力)を受けたことがありますか。

1. 暴力を受けたことがある ⇒問15へ 2. 暴力を受けたことがない ⇒問21へ

※問14で「1. 暴力を受けたことがある」を選んだ方

問15 あなたが何歳の時にDVを受けましたか。当てはまる番号を選んでください。(複数回答可)

1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳以上

※問14で「1. 暴力を受けたことがある」を選んだ方

問16. DV加害者はあなたからみてどの続柄になりますか。

1. 配偶者、パートナー(事実婚等の関係) 2. 交際相手

※問14で「1. 暴力を受けたことがある」を選んだ方

問17. あなたはどのようなドメスティックバイオレンスを受けましたか。あてはまる番号を選んでください。

(1)身体的暴力	何度もあった	一・二度あった	一度も無い
1 医師の治療が必要とならない程度の暴行	1	2	3
2 医師の治療が必要となる程度の暴行	1	2	3
3 命の危険を感じるくらいの暴行	1	2	3
4 包丁を突きつけられる	1	2	3
5 物を投げつけられる	1	2	3
6 その他()			

(2)精神的暴力	何度もあった	一・二度あった	一度も無い
1 大声で怒鳴られる	1	2	3
2 「誰のおかげで生活できるんだ」、「甲斐性無し」等と言われる	1	2	3
3 何を言っても無視される	1	2	3
4 発言権を与えてもらえない	1	2	3
5 交友関係や電話の内容を細かく監視される	1	2	3
6 外出を禁止される	1	2	3
7 その他()			

(3)経済的暴力	何度もあった	一・二度あった	一度も無い
1 生活費を渡してくれない	1	2	3
2 外で働くことを妨害される	1	2	3
3 家計を厳しく管理される	1	2	3
4 その他()			

(4)性的暴力	何度もあった	一・二度あった	一度も無い
1 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	1	2	3
2 性的な行為を強要される	1	2	3
3 避妊に協力してくれない	1	2	3
4 子どもができないことを一方的に非難する	1	2	3
5 その他()			

(5)子どもを巻き込んだ暴力	何度もあった	一・二度あった	一度も無い
1 子どもの目の前で暴力を振るわれる	1	2	3
2 子どもを取り上げられる	1	2	3
3 子どもに暴力を振るうと脅される	1	2	3
4 自分の言いたいことを子どもに言わせる	1	2	3
5 その他()			

※問14で「1. 暴力を受けたことがある」を選んだ方

問18.あなたはDVを受けた時に相談しましたか。

1. 相談した ⇒問19へ 2. 相談しなかった ⇒問20へ

※問18で「1. 相談した」を選んだ方

問19. DVを受けた時に相談した人(機関)についてあてはまる番号を選んでください。(複数回答可)

1. 家族や親戚 2. 知人・職場の同僚・上司 3. 警察 4. 市役所
5. 千葉県の相談窓口(配偶者暴力相談支援センター、千葉県女性サポートセンター)
6. 民生委員・児童委員 7. 弁護士等司法の専門家 8. 民間の相談機関 9. 学校・教育関係者
10. 医療機関 11. その他()

※問18で「2. 相談をしなかった」を選んだ方

問20.相談しなかった理由についてあてはまる番号を選んでください。(複数回答可)

1. 相談できる人がいなかった
2. 相談できる機関が分からなかった
3. 相談するほどのことでは無いと思ったから
4. 自身にも悪いところがあると思ったから
5. 相談しても無駄だと思ったから
6. 自分さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思ったから
7. その他()

※すべての方

問21.あなたはDVを見聞きしたことがありますか。あてはまる番号を選んでください。(複数回答可)

1. 身近な人から暴力の相談を受けたことがある
2. 相談は受けたことがないが、配偶者などからの暴力を受けた人を知っている
3. 配偶者などからの暴力がテレビや新聞で問題になっていることを知っている
4. 配偶者などからの暴力について見聞きしたことはない
5. その他()

※すべての方

問22.行政のDV支援対応について望むものはどれですか。あてはまる番号を選んでください。(複数回答可)

1. 警察による対応
2. 一時避難所の確保
3. 相談体制の充実
4. 相談機関の周知
5. 支援センター等の整備
6. 経済的支援
7. 意識啓発
8. その他()

あなたご自身のことについておたずねします

※すべての方

問23. あなたの性別についておきかせください。

1. 男性 2. 女性

※すべての方

問24. あなたの年齢についておきかせください。

1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代 5. 60歳代 6. 70歳以上

※すべての方

問25. あなたの職業についておきかせください。

農業	自営業・自由業	勤め人	その他
1. 事業主	3. 事業主	5. 管理職(部課長以上)	9. 専業主婦・主夫
2. 家族従事者	4. 家族従事者	6. 管理職以外の一般社員・職員	10. 学生
		7. パート・アルバイト・内職	11. 無職
		8. 派遣・契約社員	12. その他()

※すべての方

問26. あなたのお住まいの小学校区はどちらですか。不明の場合は地区名をおきかせください。

1. 実住小学校区 2. 笹引小学校区 3. 朝陽小学校区 4. 交進小学校区 5. 二州小学校区
6. 川上小学校区 7. 八街東小学校区 8. 八街北小学校区 9. 地区名()

※すべての方

問27. あなたは八街に住んで何年になりますか。あてはまる番号を選んでください。

1. 生まれたときから 2. 3年未満 3. 3年以上5年未満 4. 5年以上10年未満
5. 10年以上20年未満 6. 20年以上30年未満 7. 30年以上

※すべての方

問28. あなたと一緒に暮らしているご家族に、次にあてはまる方がいらっしゃいますか。あてはまる番号をすべて選んでください。

1. 就学前の子ども 2. 小学生 3. 介護を必要とする方 4. 介護は必要としない65歳以上の方
5. いずれもない

※すべての方

問29. あなたは現在結婚していらっしゃいますか。あてはまる番号を選んでください。

1. 現に婚姻をしている(事実婚を含む。) ⇒ 問29-1へ
2. 未婚 ⇒ 問30へ
3. 離死別 ⇒ 問30へ

※問29で「1. 現に婚姻をしている(事実婚を含む。)」を選んだ方

問29-1. ふたりとも収入を得る仕事(パート・アルバイトなど含む)をしていますか。あてはまる番号を選んで

1. 夫(男性のパートナー)だけが働いている 2. 妻(女性のパートナー)だけが働いている
3. ふたりとも働いている 4. ふたりとも働いていない 5. その他()

※すべての方

問30. 最後に、男女共同参画について、ご意見がありましたらご記入ください。

お忙しいところ多数の質問にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。
お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて、8月31日(月)までに投函してください。

『男女共同参画社会に関する市民意識調査報告書』
令和3年1月

八街市 総務部 企画政策課

〒289-1192 千葉県八街市八街ほ35番地29

電 話 : 043-443-1114

F A X : 043-444-0815

E-mail : kikaku@city.yachimata.lg.jp